

樋越 神人村遺跡

群馬県動物愛護センター建設工事事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県健康福祉部食品安全局衛生食品課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

樋越神人村遺跡

動物愛護センター建設工事事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県健康福祉部食品安全局衛生食品課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、平成26年度に群馬県動物愛護センター建設工事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行い、平成27年度に整理事業を行った樋越神人村遺跡の発掘調査報告書です。

群馬県動物愛護センターは、「命の大切さの発信」を基本理念とし、官民協働により、動物愛護の普及啓発や犬猫の譲渡の推進等の総合的な動物愛護行政の推進を図る施設として、本年7月に業務が開始されました。

遺跡のある玉村町は、群馬県の南端に位置し、県都前橋、高崎、伊勢崎、藤岡市に隣接する、関東平野の一端にあります。近世には、交通の要所として発達し、利根川を利用しての水上交通の発着点として、また例幣使街道の宿場町として栄えてきました。古代においても古墳や集落遺跡等が発見されています。

ここに報告します樋越神人村遺跡の東側に隣接する部分は、1991年に群馬県中央食肉衛生検査所建設に伴う発掘調査が、玉村町教育委員会により実施されています。この調査では、奈良・平安時代の集落跡が発見され、遺跡の南東にある神明宮の神官たちが住んでいたと推定されました。今回の発掘調査でも、前回の調査同様に奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物、井戸等が発見され、当地域の古代集落の一端を垣間見ることが出来ました。

本遺跡周辺では、古代の集落の他、官衛と呼ばれる役所の跡を思わせるような遺構や水田跡などが発見されています。そして、これまでの周辺遺跡の発掘調査成果を含め、古代の集落が発見された樋越神人村遺跡の発掘調査成果と複合的に検討することにより、当地域の人々がどのような生活をしてきたのか、地域社会の歴史を復元するために資するものと思います。

本報告書の作成にあたっては、群馬県健康福祉部食品安全局衛生食品課、群馬県食肉衛生検査所、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会、地元関係者の皆様より、ご指導、ご協力を賜りました。これらの皆様に心より感謝の意を表し、序といたします。

平成27年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男









例 言

1. 本書は、平成26年度群馬県動物愛護センター建設工事業に伴い発掘調査を行い、平成27年度群馬県動物愛護センター建設工事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として整理作業を行った極越神人村遺跡の発掘調査報告書である。
2. 極越神人村遺跡は、群馬県佐波郡玉村町極越305番地7に所在する。
3. 事業主体 群馬県健康福祉部食品安全局衛生食品課
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制

発掘調査履行期間	平成26年4月18日～平成26年7月31日
調査期間	平成26年5月1日～平成26年5月31日
調査担当	関根肇二(調査統括)、藤井義徳(主任調査研究員)
遺跡掘削工事請負	株式会社飯塚組
地上測量委託	株式会社シン技術コンサル
6. 調査面積 380㎡
7. 整理作業履行期間 平成27年8月1日～平成27年12月31日
整理期間 平成27年8月1日～平成27年10月31日
8. 本書の作成分担

編集	佐藤元彦(補佐(総括))、デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
遺物観察	石製品：津島秀章(専門員(総括))、金属器：関邦一(補佐(総括)資料統括)、古墳～平安時代遺物：神谷佳明(専門調査役)
遺物写真撮影	石製品：津島秀章、金属器：関邦一、その他：佐藤元彦
9. 発掘調査及び報告書作成には、群馬県健康福祉部食品安全局衛生食品課、群馬県食肉衛生検査所、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
10. 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡 例

1. 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。
2. 本書に用いた座標・方位はすべて国家座標「世界測地系(測地成果2011)平面直角座標系第1X系」による。
座標北と真北との偏差は $X = 35380.788$ $Y = -62993.778$ (北緯36度19分0.58秒、東経139度7分54.45秒)で+0度24分55.81秒である。なお、当所における磁北線は $N-7.3^{\circ}-W$ である。
また、遺構図中の十字記号は世界測地系座標の基準点を示す。座標値のX値とY値の下3ケタを付記した。
3. 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。住居にあつてはカマドのある壁と直交する軸を主軸とし、その傾きを度で示した。カマドの確認できない住居については計測不能のため不明とした。また住居以外の遺構で形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。
4. 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○.○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦:横:面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長:短:面積の順での記載を原則とした。
5. 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。
6. 遺構面積の算出に際しては、縮尺1:20の平面図を用いプランメーターで計測を行った。
7. 本書の遺構図版縮尺は以下を原則とする。
住居・掘立柱建物1:60 カマド1:30 井戸・土坑・ピット・焼土遺構・性格不明遺構1:40
溝1:100・1:60
8. 本書の遺物図版縮尺は以下を原則とする。
土器1:3 石製品1:2 金属製品1:2
9. 本書で使用したトーンは以下のとおりである。
攪乱  焼土  炭化部  粘土  灰 
灰軸  黒色  煤 
10. 本書における遺構略称は以下のとおりである。
住居、住。掘立柱建物、掘立。井戸、井。土坑、土。焼土遺構、焼。性格不明遺構、不明。
11. 本書における土層注記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。
12. 本書で使用した地形図・地勢図は以下のとおりである。
国土地理院地勢図1:200,000「宇都宮」平成18年4月1日発行
国土地理院地勢図1:200,000「長野」平成18年4月1日発行
国土地理院地形図1:25,000「伊勢崎」平成15年2月1日発行
国土地理院地形図1:25,000「高崎」平成22年12月1日発行
13. 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が玉村町教育委員会より刊行されている。
玉村町埋蔵文化財調査報告書第3集
「神人村Ⅱ遺跡 一群馬県中央食肉衛生検査所移転建築に伴う埋蔵文化財調査報告書一」(1992年3月31日発行)
調査期間 平成3年10月26日～平成4年2月25日

目 次

序
例言
凡例
目次

第1章 調査の経過	
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第2章 立地と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	5
第3章 確認された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	13
第2節 竪穴住居	15
第3節 掘立柱建物	27
第4節 溝	28

第5節 井戸	29
第6節 土坑・ピット列・ピット	30
第7節 その他の遺構	40

第4章 まとめ	47
---------	----

報告書抄録

写真図版

検出遺構写真	PL.1
出土遺物写真	PL.16

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 調査区位置図	2
第3図 遺跡周辺の地形	3
第4図 群馬県中部部の地質	4
第5図 周辺遺跡位置図	6
第6図 基本土層模式図	13
第7図 遺跡全体図	14
第8図 1号住居と出土遺物	15
第9図 2号住居と出土遺物	16
第10図 3号住居と出土遺物	16
第11図 4号住居と出土遺物1	17
第12図 4号住居出土遺物2	18
第13図 5号住居1	18
第14図 5号住居2と出土遺物1	19
第15図 5号住居出土遺物2	20
第16図 6号住居と出土遺物1	21
第17図 6号住居出土遺物2	22
第18図 7号住居と出土遺物1	23
第19図 7号住居出土遺物2	24
第20図 8号住居	25

第21図 8号住居出土遺物	26
第22図 1号掘立柱建物	27
第23図 1号溝と出土遺物	28
第24図 2号溝と出土遺物	29
第25図 1号井戸	29
第26図 1～7号土坑	30
第27図 8～16号土坑	31
第28図 17,18号土坑	32
第29図 1～3号ピット列	33
第30図 1～3,5～11号ピット	34
第31図 12～16,23,24,28,29号ピット	35
第32図 30～34号ピット	36
第33図 1,4,5,8,9号土坑出土遺物	37
第34図 9,11,13～15,18号土坑・15号ピット出土遺物	38
第35図 1～3号焼土遺構	40
第36図 1,2号不明確構・1～3号焼土遺構・1号不明遺構出土遺物	41
第37図 2号不明遺構出土遺物	42
第38図 旧石器確認トレンチ配置図・土層図、1号トレンチ出土遺物	43
第39図 遺構外出土遺物	44

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	7
第2表 1号住居出土遺物観察表	15
第3表 2号住居出土遺物観察表	16
第4表 3号住居出土遺物観察表	16
第5表 4号住居出土遺物観察表	18
第6表 5号住居出土遺物観察表	20
第7表 6号住居出土遺物観察表	22
第8表 7号住居出土遺物観察表	24
第9表 8号住居出土遺物観察表	26
第10表 8号住居出土遺物観察表2	27
第11表 1号掘立柱建物計測表	27
第12表 1号溝出土遺物観察表	29
第13表 2号溝出土遺物観察表	29

第14表 土坑一覧表1	32
第15表 ピット列一覧表	33
第16表 ピット一覧表	36
第17表 土坑・ピット2	37
第18表 土坑・ピット出土遺物観察表	39
第19表 焼土遺構・不明遺構出土遺物観察表	42
第20表 旧石器確認1号トレンチ出土遺物観察表	43
第21表 遺構外出土遺物観察表	45
第22表 未掲載石質遺物集計表	45
第23表 測片集計表	45
第24表 未掲載金属遺物集計表	45
第25表 未掲載土器集計表	46

写真目次

Pl. 1	1. 福越神人村遺跡全景(東から)	3. 13～15号土坑遺物出土状態(西から)
	2. 福越神人村遺跡全景(北から)	4. 13～15号土坑断面(西から)
Pl. 2	1. 1号住居全景(西から)	5. 13～15号土坑全景(西から)
	2. 2号住居全景(西から)	6. 16号土坑全景(西から)
	3. 2号住居上層断面A-A' (南から)	7. 17号土坑全景(東から)
	4. 3号住居全景(西から)	8. 17号土坑上層断面(南から)
	5. 4号住居全景(西から)	Pl.10
	6. 4号住居カマド遺物出土状態(西から)	1. 18号土坑全景(東から)
	7. 4号住居カマド全景(西から)	2. 18号土坑上層断面(東から)
	8. 4号住居須恵器羽釜(3)出土状態(西から)	3. 1号ビット列P1全景(南から)
Pl. 3	1. 5号住居全景(西から)	4. 1号ビット列P2全景(南から)
	2. 5号住居カマド上層断面C-C' (西から)	5. 1号ビット列P3全景(南から)
	3. 6号住居全景(南西から)	6. 2号ビット列P1全景(南から)
	4. 6号住居カマド上層断面C-C' (南西から)	7. 2号ビット列P2全景(南から)
	5. 6号住居カマド上層断面B-B' (北西から)	8. 2号ビット列P3全景(南から)
	6. 6号住居カマド全景(南西から)	Pl.11
	7. 6～8号住居全景(西から)	1. 3号ビット列P1全景(南東から)
	8. 7号住居全景(北西から)	2. 3号ビット列P2全景(南から)
Pl. 4	1. 7号住居カマド上層断面C-C' (北西から)	3. 3号ビット列P3全景(南から)
	2. 7号住居カマド上層断面B-B' (南西から)	4. 1号ビット全景(南から)
	3. 7号住居カマド全景(北西から)	5. 2号ビット上層断面(西から)
	4. 7号住居カマド掘り方全景(西から)	6. 3号ビット全景(南から)
	5. 8号住居全景(西から)	7. 5号ビット全景(南から)
	6. 8号住居カマド全景(西から)	8. 6号ビット全景(南から)
	7. 8号住居掘り方全景(西から)	Pl.12
	8. 8号住居カマド掘り方上層断面C-C' (西から)	1. 7号ビット全景(南から)
Pl. 5	1. 8号住居カマド掘り方上層断面C-C' (南から)	2. 8号ビット全景(南から)
	2. 8号住居ビット1全景(南から)	3. 9号ビット全景(南から)
	3. 1号掘立柱建物全景(西から)	4. 10号ビット全景(南から)
	4. 1号掘立柱建物P1全景(南から)	5. 11号ビット全景(西から)
	5. 1号溝全景(北から)	6. 12号ビット全景(南西から)
	6. 1号溝板碑(4)出土状態(南から)	7. 13号ビット全景(南から)
	7. 2号溝全景(西から)	8. 14号ビット全景(南から)
	8. 2号溝全景(東から)	Pl.13
Pl. 6	1. 1号井戸全景(南から)	1. 15号ビット全景(北東から)
	2. 1号井戸上層断面(南から)	2. 16号ビット全景(南から)
	3. 1号土坑全景(南から)	3. 23号ビット全景(南から)
	4. 1号土坑上層断面(南から)	4. 24号ビット全景(南東から)
	5. 2号土坑全景(南から)	5. 28号ビット上層断面(東から)
	6. 2号土坑上層断面(南から)	6. 29号ビット全景(南東から)
	7. 3号土坑全景(南東から)	7. 29号ビット上層断面(南西から)
	8. 3号土坑上層断面(南東から)	8. 30号ビット全景(西から)
Pl. 7	1. 4号土坑全景(南から)	Pl.14
	2. 4号土坑上層断面(南から)	1. 31号ビット全景(北から)
	3. 5号土坑上層断面(南から)	2. 32号ビット全景(西から)
	4. 6号土坑全景(西から)	3. 33号ビット上層断面(南から)
	5. 6号土坑上層断面(西から)	4. 34号ビット全景(南から)
	6. 7号土坑全景(南西から)	5. 1号焼土遺構全景(西から)
	7. 7号土坑上層断面(南東から)	6. 1号焼土遺構上層断面(西から)
	8. 8号土坑全景(北東から)	7. 2号焼土遺構全景(西から)
Pl. 8	1. 9号土坑遺物出土状態(東から)	8. 2号焼土遺構上層断面(北東から)
	2. 9号土坑上層断面(北東から)	Pl.15
	3. 9号土坑全景(北東から)	1. 3号焼土遺構上層断面(東から)
	4. 10号土坑全景(南から)	2. 1,2号不明遺構全景(南から)
	5. 10号土坑上層断面(南から)	3. 旧石器確認1号トレンチ(西から)
	6. 11号土坑遺物出土状態(北から)	4. 旧石器確認1号トレンチ上層断面(西から)
	7. 11号土坑上層断面(北から)	5. 旧石器確認2号トレンチ(西から)
	8. 11号土坑全景(北から)	6. 旧石器確認2号トレンチ上層断面(西から)
Pl. 9	1. 12号土坑全景(北から)	7. 旧石器確認3号トレンチ(西から)
	2. 12号土坑上層断面(南から)	8. 旧石器確認3号トレンチ上層断面(西から)
		Pl.16
		1. 4, 5, 6号住居出土遺物
		Pl.17
		7. 8号住居・1号溝・8, 9号土坑出土遺物
		Pl.18
		11, 13～15, 18号土坑・15号ビット・2, 3号焼土遺構出土遺物
		Pl.19
		2号不明遺構・遺構外出土遺物

第2節 発掘調査の方法

掘削に関しては重機を用いて表土除去を行った。調査区の中央を南北に貫通する雨水排水暗渠があったため、これを避けて掘削を行った。

天候不良による作業休止等の障害が少なく、予定通りに調査が完了し、5月30日には調査事務所の撤収等を行った。

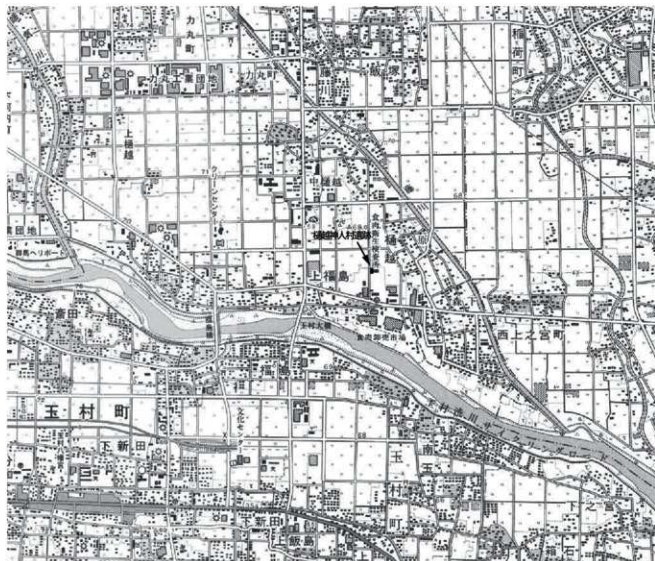
調査成果の詳細は、調査日誌(抜粋)に記す。

遺構の確認から掘削に至る作業については遺跡掘削工事請負業者に委託し実施した。記録測量については、基準点・水準点測量および遺構図測量などの作業を測量業者への業務委託で実施した。測量縮尺は1/10・1/20を基準とし、全体図等には1/100を用いた。

記録写真撮影には1800万画素の一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一眼レフ・フィルムカメラを用い、調査担当者が撮影にあたった。

調査日誌(抜粋)

- 5月1日 調査開始。表土掘削を始める。
- 5月2日 基準杭・ベンチマーク設定。
- 5月7日 遺構確認開始。
- 5月8日 個別遺構の調査を始める。
- 5月15日 調査区の拡張を行う。
- 5月19日 西調査区を拡張する。
- 5月21日 雨天の為作業中止、現場巡回。
- 5月26日 旧石器確認調査を始める。
- 5月29日 調査終了。
- 5月30日 撤収、事務処理。



第2図 調査区位置図(国土地理院地形図1:25,000「伊勢崎」「高崎」)

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

本遺跡は群馬県の中央南部にある佐波郡玉村町の北東部に位置する。本遺跡の所在する玉村町極越地区は後期更新世に形成された砂礫層を基底とする前橋台地の東南端にあたり、水系に由来する微高地と後背低地が入り組み混在する地形をなしている。遺跡は利根川とそこに流れ込む藤川に挟まれた嘴状の地域にある微高地の一つに立地している。(第3図)

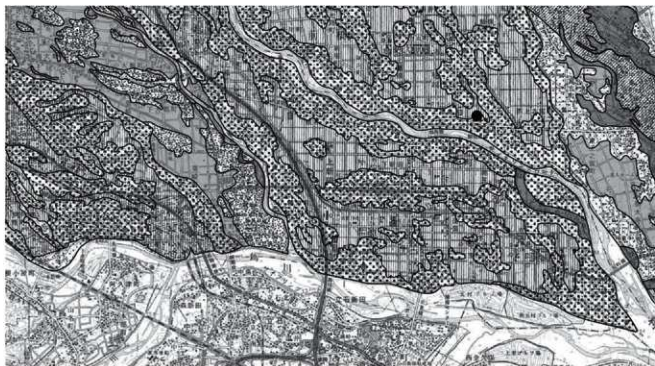
周辺の地形・地理的環境については「上新田中道東遺跡」(小島2012)および「斉田中耕地遺跡(2)」(飯森2013)に詳しいので参照されたい。本稿では地理的環境の変遷の概要を記述するにとどめる。







後期更新世の終わり頃、元利根川のもたらした堆積物

は前橋市北部付近を頂点として扇状地状に堆積し、層厚200m以上(早田1990)の前橋台地砂礫層が形成された。この砂礫堆積物が前橋台地の基盤を構成している。

およそ2万年前(早田1990)から2.4万年前頃にかけて、浅間山山体崩落に由来する泥流堆積物(前橋岩なだれ堆積物群)により前橋台地砂礫層が覆われた(前橋泥流堆積層)。

およそ1.8万年前(久保・鈴木・中島・宮沢2011)から2.0万年前(下司2013)頃に榛名山で山体崩落が生じた。この崩落によりもたらされた堆積物(陣場岩屑なだれ堆積物・陣場火砕流堆積物)が榛名山麓東方を覆った^(註1)。これにより元利根川の河道域は赤城山南西麓方面に流れを変えらることとなった。以来、前橋泥流堆積層は古利根川により赤城山南西麓側が侵食され、広瀬川低地帯^(註2)が形成され、前橋台地が形成された。



- | | |
|---|--|
|  (IM) 井野川泥流堆積面 |  (MC) 広瀬川低地帯の旧中州(浅間Bテフラ降灰後) |
|  (LP) 前橋・伊勢崎台地上の微高地 |  (RM) 河成段丘(後背湿地: 完新世) |
|  (BP) 前橋・伊勢崎台地上の後背湿地 |  (BC) 河成段丘(旧中州: 完新世) |

第3図 遺跡周辺の地形(『群馬県史』通史編1より作成)(飯森2013より引用)

台地上には広く前橋泥炭層が形成され、前橋市総社町付近に良好な露頭があることが知られている。炭素年代法による泥炭層の年代として1.3万年前(早田1990)から1.1万年前(辻・木越1992)という測定値がえられているが、最新の加速器質量分析法を用いると、1.7万年前から1.5万年前という年代値が得られるという。最終氷期の末期にあたる当時の台地は、居住に適さない寒冷で湿潤な環境下にあったとされる⁽³³⁾。

井野川低地(第4図I)は古利根川変流前の元利根川の旧流路とされ、これにより前橋台地(第4図M)と高崎台地(第4図T)とが地形区分されている。およそ1.1万年前頃には井野川泥流堆積物(高崎泥流堆積物)が堆積し、高崎台地と井野川低地を覆った。

広瀬川低地帯を流れていた古利根川が、その流路を変更し現在の流路に落ち着いたメカニズムについては諸説あるものの、その時期は概ね中世とされる。なお、澤口(2014)は前橋市の敷島町から荒牧町にかけての1帯を「利根川が広瀬川低地から前橋台地の中へと変流してか

ら形成された地形面」とし「敷島面」と名付けた。

早田(1990)は「現在、前橋台地上に発達する自然堤防の基礎は、おおよそ縄文時代のある時期に作られたと考えられる」とする。本道跡周辺に発達する網目状の微高地と後背低地の多くは、その生成について現利根川変流以前にその成因を求められると推測される。また小島(2012)によれば、玉村町周辺の現利根川沿いにみられる自然堤防の多くはこの変流以降に生成されたものと考えられている。

註

- 註1 第4図中央部左上の710と接する902。
- 註2 第4図中央部を斜めに占める6,10の領域。
- 註3 早田1990によれば、泥炭層上位部の花粉分析からは急速な温暖化と年降水量の増加傾向が読み取れるとある。元利根川が流路を変更した後も湿潤な環境が維持されたと考えられる。
- 註4 第4図の破線で加筆した前橋台地(M)、高崎台地



- 6 後期更新世-完新世(Q3)の自然堤防(含:浜埋)堆積物
- 10 後期更新世-完新世(Q3)の海成または非海成堆積岩類
- 22 後期更新世(Q3)の低位段丘堆積物
- 40 前期更新世(Q1)の海成または非海成堆積岩類
- 60 中-後期中新世(Q2)の海成または非海成堆積岩類
- 80 前期中新世-中期中新世(Q1)の海成または非海成堆積岩類
- 420 新-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの基質
- 427 新-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの玄武岩ブロック(石炭紀-ペルム紀)
- 429 新-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスのチャートブロック(石炭紀-後期三疊紀)
- 440 中-後期ジュラ紀(J2-3)の付加コンプレックスの基質
- 447 中-後期ジュラ紀(J2-3)の付加コンプレックスの玄武岩ブロック(石炭紀-ペルム紀)
- 710 第四紀(Q)の火山岩類
- 711 完新世(Q)の火山岩類
- 821 完新世(Q)の非アルカリ珪長質火山岩類
- 822 後期更新世(Q3)の非アルカリ珪長質火山岩類
- 831 晩新世-前期始新世(PG1)の非アルカリ珪長質火山岩類
- 901 完新世(Q)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
- 902 後期更新世(Q3)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
- 903 中期更新世(Q2)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
- 1010 中期更新世(Q2)の非アルカリの苦鉄質火山岩類

第4図 群馬県中央部の地質(「産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)『(2014)20万分の1日本シームレス地質図』2014年1月14日版、産業技術総合研究所地質調査総合センター」に加筆)⁽³⁴⁾

(T)、井野川低地(I)の各領域は国土地理院の土地条件調査解説書「前橋及び高崎地区」2010によった。なお元図は「前橋高崎台地」とし両者を分けていない為、井野川低地から井野川沿いに上流に向け境界線を設定した。

参考資料

- 小島敦子(2012)「第2章1. 周辺の遺跡と地形」『上新田中道東遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.19-23
- 飯森康広(2013)「第2章1 遺跡の位置と地形」『齊田中耕地遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.6-8
- 早田勉(1990)「群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編1、原始古代1』群馬県史編纂委員会編pp.37-129
- 辻誠一郎・木越邦彦(1992)「前橋泥炭層の放射性炭素年代」『植生史研究第1巻第1号』pp.27-28
- 澤口宏(2014)「前橋台地の利根川」『良好な自然環境を有する地域学術調査報告書(XXXX)』群馬県環境森林部自然環境課pp.109-119
- 久保誠二・鈴木幸枝・中島正裕・宮沢公明(2011)「榛名火山南東麓の地質」『群馬県立自然史博物館研究報告(15)』群馬県立自然史博物館pp.115-127
- 下司信夫(2013)詳細火山データ集:榛名火山。日本の火山,産総研地質調査総合センター(https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/haruna/)
- 国土地理院(2010)「土地条件調査解説書『前橋及び高崎地区』平成22年11月」国土地理院
- 吉田英嗣(2004)「浅間火山を起源とする泥炭堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響」『地理学評論77-8』pp.544-562

第2節 歴史的環境

玉村町周辺の歴史的環境については『上新田新田西遺跡(2)』(長谷川2013)や『上新田中道東遺跡』(小島2012)に詳しいので、以下に利根川左岸・玉村町北東部に位置する本遺跡周辺部の概要を記す。

旧石器時代から縄文時代

約1.7万年前から1.1万年前頃の本遺跡周辺は前橋泥炭

層が形成された時期にあたり、寒冷で湿潤な生活に適さない土地であったとされ、最終氷期を抜けた時点においても寒冷で湿潤な環境は継続したと考えられている。活動痕跡が残るには難しい環境と思われるが、本遺跡の東を流れる藤川の流域には隆起線文土器や石槌類が出土した徳丸中田遺跡があるように、本遺跡周辺でも砂町遺跡(40)や齊田中耕地遺跡(85)から有舌尖頭器や石槌が単独出土するなど、前橋台地の微高地には縄文時代草創期の遺跡が点在する。

縄文早期・前期とも遺跡は減少傾向にあるのか、現状では集落らしき遺跡は確認されていないが、福島曲戸遺跡(115)で縄文時代中期後半加曾利E4式期の、福島大光坊遺跡(131)で縄文時代中期後半加曾利E3式期の土坑が確認されており、今後小規模集落の発見が期待されている。

弥生時代

前代と異なりようやく本遺跡周辺にも行動拠点と呼べる遺跡が見出されるようになる。本遺跡周辺の弥生時代遺跡の分布については小島(2012)に詳しい。小島(2012)は藤川や端気川などの現流路を自然河川流路とみることによって水系毎に農耕発達史的な遺跡分布が捉えられるとする。現状では集落の定着時期は弥生中期後半とされる。弥生後期の集落はやや増加傾向といわれるが、弥生中期後半の集落と大きく変わるところは無く、こうした傾向は高崎台地の弥生時代遺跡の分布と遜色ないようである。本遺跡周辺の調査例は少なく情報も断片的であるが、上飯島芝根II遺跡(134)、一万田遺跡(29)などから弥生時代中期後半の住居や再葬墓が確認されているほか、弥生時代後期の遺跡では八街北圃・八街北区遺跡(127)や福島飯塚遺跡(122)が知られている。

古墳時代

本遺跡の所在する玉村町に多くの集落が営まれるようになったのは古墳時代以降とされる。本遺跡周辺でも集落が発見されるようになる。なお玉村町周辺は方形の周溝を伴う竪穴住居が存在する地域として知られているが、本遺跡周辺では見つからない。この時代、利根川は前橋台地上を流れてはいないのだが、利根の右岸と左岸とでは遺跡の在り方が異なるように思われる。前橋台地周辺部から開発がすすめられた感がある。

利根川右岸の福島稲荷木遺跡(124)や福島久保田遺跡

(119)、福島曲戸遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、上飯島芝根Ⅱ遺跡などで古墳時代前期集落の調査が行われている。利根川左岸では砂町遺跡で古墳時代前期末の溝が検出されたにとどまる。また利根川右岸の福島飯塚遺跡では古墳時代前期の周溝墓が報告されている。同じく右岸の齊田中耕地遺跡ではその覆土に浅間C軽石が混入する疑似畦畔水田跡が報告されている。

玉村町の古墳の多くは烏川沿いにみられるが、樋越地区や利根川右岸の南玉地区、箱石地区、下之宮地区には後期の群集墳を主とした古墳が点在している。また隣接する伊勢崎市域に含まれるが、前橋台地東南端の現葦川沿いの地域には稲荷山古墳群(7)や若宮古墳群(168)が存在する。

福島飯塚遺跡(98)、福島大島遺跡(123)、福島飯塚遺

跡、福島大光坊遺跡、福島久保田遺跡、福島曲戸遺跡など利根川右岸の遺跡から古墳時代後期の小区画水田が報告されている。これらの遺跡が立地する土地は「13D細粒灰色低地土、灰褐色」ないし「14D細粒グライ土」と呼ばれる土壌地帯で、旧河床に多い土質とされる。利根川左岸でこの土質の地域は玉村町上樋越地区から下樋越地区にかけての一带と伊勢崎市域の稲荷山古墳群周辺が該当するが、調査例も少なく古墳時代水田は報告されていない。

奈良・平安時代

奈良時代には本道跡周辺に推定東山道駅路のルートの一つが想定されている。4m幅の道路状遺構が確認された中之坊遺跡(30)をはじめ、砂町遺跡や上福島尾柄町遺跡(34)から道路状遺構が報告されている。また柄田添遺



初現時期 ●古墳時代 ●奈良時代 ○平安時代 ○中世 □近世

第5図 周辺遺跡位置図(国土地理院地形図1/25,000「高崎」伊勢崎)

跡(63)や福島稲荷木遺跡など微高地を中心に新たな集落も増加しており、本遺跡に隣接する神人村Ⅱ遺跡(1)もその一つと考えられる。

平安時代ともなると斉田竹之内遺跡(99)、福島稲荷木Ⅳ遺跡(109)、上福島中町遺跡(37)、一万田遺跡、柄田添遺跡、福島大島遺跡など利根川兩岸の広い範囲で集落が報告されるようになる。また一万田遺跡からは直径1mの柱穴からなる柵列がみつき、上飯島芝根Ⅱ遺跡では銅印が、福島曲戸遺跡や福島飯塚遺跡からは漆紙文書が出土するなど、郡衙や寺院といった公的施設の存在も想定されている。上福島尾柄町遺跡や福島久保田遺跡など、沖積地の水田耕作化も進められている。1108年(天仁元年)の浅間山噴火により埋没した水田跡も神人村Ⅱ遺跡や金免遺跡(41)などで見つかった。

中近世

中世にいたると騒乱の時代背景の元、交通の要衝であることから平城の形相とも目される塚を巡らせた屋敷・館がつくられたことが田口下屋敷遺跡(69)や福島大島遺跡、下之宮高畹遺跡(162)などの発掘調査により明らか

となった。この時期、荘園の成立と併行して、前代の浅間山噴火被害の復興作業が進められている。

近世にはいり滝川用水が敷設されて未開発地の新田開発がすすめられた。また玉村宿は日光例幣使街道の整備に伴い宿町として発展した。八街北園・八街北区遺跡では玉村宿東端の調査が行われた。1783年(天明三年)の浅間焼けによる家屋・田畑の被害状況や、被災した田畑を復旧した様子が樋越諏訪前遺跡(22)や上福島中町遺跡、福島曲戸遺跡など多くの遺跡で確認されている。

参考資料

長谷川博幸2013「第2章第2節遺跡周辺の歴史環境」『上新田新田西遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.7-15

小島敦子2012「第2章2.周辺の遺跡分布」『上新田中道東遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.23-28
農業技術研究所「土壌情報閲覧システム、http://agrimes.h.dac.affrc.go.jp/soil_db/ind_e.x.p.html」

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
1	神人村Ⅱ遺跡	玉村町樋越				○	○				集落、水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第3集、神人村Ⅱ遺跡」1992.3 山崎一「群馬県古城遺址の研究 上巻」1971.12
2	力丸城	前橋市力丸町						○			城跡	
3	横丹遺跡	玉村町樋越				○	○	○	○			玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第85集、横丹遺跡」2009.3
4	玉村町No.13遺跡	玉村町飯塚				○	○				集落	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
5	今川城跡	伊勢崎市稲荷町						○			城跡	山崎一「群馬県古城遺址の研究 上巻」1971.12
6	松原遺跡	伊勢崎市稲荷町				○	○	○			散布地、古墳	昭2年度伊勢崎市教育委員会調査
7	稲荷山古墳群	伊勢崎市稲荷町				○					古墳	古城古墳55年、杉葉古墳54年群馬大学史学研究室、54年伊勢崎市教育委員会、上之宮古墳54年伊勢崎市教育委員会、竹葉跡古墳、宮郷4・8号墳、富士塚古墳54年伊勢崎市教育委員会調査
8	玉村町No.71遺跡	玉村町樋越				○	○				集落	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
9	玉村町No.70遺跡	玉村町樋越				○	○				集落	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
10	玉村町No.541遺跡	玉村町樋越				○	○	○			集落、畑、溝	昭7年度玉村町教育委員会試掘調査
11	玉村町No.73遺跡	玉村町樋越				○	○				集落	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
12	原浦Ⅱ遺跡	玉村町樋越				○	○	○			集落、溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第16集、原浦Ⅱ遺跡」1996.3
13	玉村町No.72遺跡	玉村町樋越				○	○				集落、堀	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
14	原浦遺跡	玉村町樋越				○	○	○			集落、溝	「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集、原浦遺跡」1998.3
15	玉村町No.75遺跡	玉村町樋越				○	○				集落	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
16	松原Ⅱ遺跡	玉村町樋越				○	○	○	○			「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第76集、神明遺跡・行人塚遺跡・十王堂遺跡・中郷遺跡・松原Ⅱ遺跡・杉山遺跡」2006.3
17	松原Ⅲ遺跡	玉村町樋越				○					集落	「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第57集、松原Ⅲ遺跡」2003.3

第2章 立地と環境

No.	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
18	阿佐美館	玉村町極越						○			城館	山崎「群馬県古墳遺址の研究 上巻」1971.12
19	玉村町No76遺跡	玉村町極越				○	○				集落	82年度玉村町教育委員会試掘調査
20	玉村町No55・No56・No487遺跡	玉村町極越			○						古墳	
21	玉村町No81遺跡	玉村町極越			○	○						82年度玉村町教育委員会試掘調査
22	極越諏訪前遺跡	玉村町極越									集落、畑	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第70集、極越諏訪前遺跡」2004.6
23	玉村町No511遺跡	玉村町極越						○			畑	84年度玉村町教育委員会試掘調査
24	玉村町No82遺跡	玉村町極越			○	○	○	○			集落	83年度玉村町教育委員会試掘調査
25	玉村町No57遺跡	玉村町極越			○						古墳	
26	玉村町No80遺跡	玉村町極越						○				82年度玉村町教育委員会試掘調査
27	玉村町No79遺跡	玉村町極越									土師器包蔵地	563年度玉村町教育委員会試掘調査
28	神人村遺跡	玉村町上福島					○				土坑、溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第73集、神人村遺跡」2005.3
29	一万田遺跡	玉村町上福島			○						集落	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第61集、一万田遺跡」2003.6
30	中之坊遺跡	玉村町極越					○	○	○	○	道路遺構、水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第79集、砂町遺跡(第1～3次調査)・尾納町遺跡・中之坊遺跡」2007.3
31	玉村町No518遺跡	玉村町上福島					○					84年度玉村町教育委員会試掘調査
32	尾納町遺跡	玉村町上福島										玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集、尾納町遺跡」1992.9
33	尾納町Ⅱ遺跡	玉村町上福島						○				玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集、尾納町Ⅱ遺跡」1992.11
34	上福島尾納町遺跡	玉村町上福島			○	○					道路遺構、水田	「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第302集、上福島尾納町遺跡」2002.3
35	上福島遺跡	玉村町上福島									水田、溝、畑	「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第309集、福島曲Ⅱ遺跡・上福島遺跡」2002.9
36	玉村町No627遺跡	玉村町上福島						○			通路状遺構	85年度玉村町教育委員会試掘調査
37	上福島中町遺跡	玉村町上福島			○	○	○	○			集落、溝、榎列、畑	「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第318集、上福島中町遺跡」2003.3
38	尾納町Ⅲ遺跡	玉村町上福島					○				水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第79集、砂町遺跡(第1～3次調査)・尾納町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡」2007.3
39	玉村町No517遺跡	玉村町上福島									水田	84年度玉村町教育委員会試掘調査
40	砂町遺跡	玉村町上福島			○	○	○	○	○		溝、道路遺構、水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第79集、砂町遺跡(第1～3次調査)・尾納町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡」2007.3
41	金免遺跡	玉村町上福島					○					玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集、金免遺跡」1989.3
42	玉村町No713遺跡	玉村町上福島						○	○	○	水田、土坑、ピット、溝、溝状遺構	824年度玉村町教育委員会試掘調査
43	玉村町No60遺跡	玉村町上福島						○			溝	82年度玉村町教育委員会試掘調査
44	玉村町No77遺跡	玉村町上福島						○				82年度玉村町教育委員会試掘調査
45	玉村町No68遺跡	玉村町極越									土坑	82年度玉村町教育委員会試掘調査
46	若宮遺跡	玉村町極越								○	水田、溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第92集、深町遺跡・深町遺跡(第2次調査)・深町Ⅱ遺跡、鞍倉東遺跡、水ノ上遺跡、若宮遺跡・玉村町No711遺跡」2012.9
47	玉村町No67遺跡	玉村町極越			○						土坑	82年度玉村町教育委員会試掘調査
48	玉村町No5遺跡	玉村町藤川										82年度玉村町教育委員会試掘調査
49	玉村町No492遺跡	玉村町藤川									水田	81年度玉村町教育委員会試掘調査
50	玉村町No5遺跡	玉村町藤川										82年度玉村町教育委員会試掘調査
51	藤川前遺跡	玉村町藤川						○				玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集、藤川前遺跡」1993.3
52	玉村町No7遺跡	玉村町藤川						○				82年度玉村町教育委員会試掘調査
53	玉村町No6遺跡	玉村町藤川						○				82年度玉村町教育委員会試掘調査
54	山之前遺跡	玉村町藤川									屋敷	玉村町遺跡調査会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第72集、山之前遺跡」2005.3
55	玉村町No14遺跡	玉村町飯塚										82年度玉村町教育委員会試掘調査
56	玉村町No12遺跡	玉村町飯塚										83年度玉村町教育委員会試掘調査
57	玉村町No11遺跡	玉村町飯塚										82年度玉村町教育委員会試掘調査
58	玉村町No10遺跡	玉村町飯塚										82年度玉村町教育委員会試掘調査

第2節 歴史的環境

No.	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
59	東方丸塚遺構群	前橋市力丸町						○			城館	群馬県教育委員会「群馬県の中世城館跡」1989.3
60	東方丸塚遺構群	前橋市力丸町						○			城館	群馬県教育委員会「群馬県の中世城館跡」1989.3
61	玉村町No.30遺跡	玉村町上福島		○							古墳	
62	玉村町No.628遺跡	玉村町上福島		○	○	○	○	○			水田、溝、畑、土坑・ピット	115・119年度玉村町教育委員会試掘調査
63	柄田添遺跡	玉村町上福島		○	○	○	○	○			集落、水田、畑、土坑・ピット、溝、溝、性格不明遺跡	玉村町遺跡調査会「一般発掘物処分場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、柄田添遺跡(第1次～第5次調査)」2011.12
64	玉村町No.39遺跡	玉村町上福島						○				12年度玉村町教育委員会試掘調査
65	玉村町No.46遺跡	玉村町板井						○				12年度玉村町教育委員会試掘調査
66	玉村町No.48遺跡	玉村町齊田						○				12年度玉村町教育委員会試掘調査
67	玉村町No.51遺跡	玉村町齊田						○	○		屋敷、畑	12年度玉村町教育委員会試掘調査
68	玉村町No.52遺跡	玉村町齊田						○				12年度玉村町教育委員会試掘調査
69	田口下屋敷遺跡	玉村町齊田							○		屋敷	山崎一「群馬県古墳群址の研究 補遺編 上巻」1979.10、玉村町遺跡調査会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第36集、田地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、田口下屋敷遺跡」2000.3
70	玉村町No.53遺跡	玉村町齊田							○			12年度玉村町教育委員会試掘調査
71	齊田東屋敷	玉村町齊田							○		屋敷	山崎一「群馬県古墳群址の研究 補遺編 上巻」1979.10
72	玉村町No.47遺跡	玉村町板井							○			12年度玉村町教育委員会試掘調査
73	玉村町No.669遺跡	玉村町板井							○		水田	12年度玉村町教育委員会試掘調査
74	町田屋敷	玉村町齊田							○		屋敷	山崎一「群馬県古墳群址の研究 補遺編 上巻」1979.10
75	田村屋敷	玉村町齊田							○		屋敷	山崎一「群馬県古墳群址の研究 補遺編 上巻」1979.10
76	玉村町No.672遺跡	玉村町齊田							○			119年度玉村町教育委員会試掘調査
77	石原屋敷	玉村町齊田							○	○	屋敷	山崎一「群馬県古墳群址の研究 補遺編 上巻」1979.10
78	玉村町No.106遺跡	玉村町板井							○			12年度玉村町教育委員会試掘調査
79	玉村町No.107遺跡	玉村町板井							○			12年度玉村町教育委員会試掘調査
80	堰屋東遺跡	玉村町上新田									集落、水田、復田溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第81集、中道東遺跡、中道西Ⅱ遺跡、堰屋東遺跡(第2次調査)、中道東Ⅱ遺跡、中道東Ⅰ遺跡(第2次調査)」2008.3、玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第92集、深町遺跡・深町道跡(第2次調査)・深町Ⅱ遺跡・堰屋東遺跡・水口遺跡・岩宮遺跡・玉村町No.711遺跡」2012.9
81	齊田八幡裏遺跡	玉村町齊田		○	○	○	○				水田、溝、土坑	113年度玉村町教育委員会調査
82	齊田五反田遺跡	玉村町齊田		○	○	○	○				水田、溝、土坑	113年度玉村町教育委員会調査
83	竹ノ内Ⅱ・大坊遺跡	玉村町齊田		○	○	○	○	○	○		水田、溝、ピット	114年度玉村町教育委員会調査
84	上新田中道東遺跡	玉村町上新田									集落、水田、畑、復田溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第528集、上新田中道東遺跡」2012.2
85	齊田中耕地遺跡	玉村町齊田							○	○	道、溝、畑、土坑、復田溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第484集、齊田中耕地遺跡」2010.2、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第571集、齊田中耕地遺跡(2)」2013.6
86	玉村町No.711遺跡	玉村町上新田							○	○	水田、井戸、土坑、ピット、溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第92集、深町遺跡・深町道跡(第2次調査)・深町Ⅱ遺跡・堰屋東遺跡・水口遺跡・岩宮遺跡・玉村町No.711遺跡」2012.9
87	玉村町No.110遺跡	玉村町上新田										12年度玉村町教育委員会試掘調査
88	玉村八幡館	玉村町上新田							○	○	城館、墓	国指定重要文化財玉村八幡宮本館所在地
89	玉村町No.547遺跡	玉村町下新田									溝状遺構	118年度玉村町教育委員会試掘調査
90	玉村町No.111遺跡	玉村町下新田										562年度玉村町教育委員会試掘調査
91	玉村館	玉村町下新田								○	城館	山崎一「群馬県古墳群址の研究 上巻」1971.12
92	布留坂Ⅱ遺跡	玉村町下新田		○	○	○	○	○			集落、土坑、雑司	113年度玉村町教育委員会調査
93	玉村町No.573遺跡	玉村町下新田							○		溝、土坑	110年度玉村町教育委員会試掘調査
94	玉村町No.614遺跡	玉村町下新田									水田、建物	113年度玉村町教育委員会試掘調査

第2章 立地と環境

No	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
95	玉村町No536道跡	玉村町下新田					○				水田	86年度玉村町教育委員会試掘調査
96	玉村町No515道跡	玉村町下新田					○				水田	84年度玉村町教育委員会試掘調査
97	布留坂道跡	玉村町下新田						○			水田?	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第27集、布留坂道跡」1998.10
98	福島飯玉道跡	玉村町福島			○			○			水田、屋敷	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第446集、福島飯玉道跡」2008.10
99	芥田竹之内道跡	玉村町福島			○			○	○		水田、屋敷、畑、復土溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書516、芥田竹之内道跡」2011.3
100	玉村町No708道跡	玉村町福島					○		○	○	水田、溝	82年度玉村町教育委員会試掘調査
101	玉村町No911道跡	玉村町福島			○						古墳	
102	玉村町No504道跡	玉村町福島					○				水田	83年度玉村町教育委員会試掘調査
103	玉村町No13道跡	玉村町福島					○		○		水田、復土溝	813・17年度玉村町教育委員会試掘確認調査
104	玉村町No505道跡	玉村町福島					○				水田	83年度玉村町教育委員会試掘調査
105	玉村町No74道跡	玉村町福島					○				水田	820年度玉村町教委試掘調査
106	宇津木館	玉村町福島						○			館跡	
107	福島岩	玉村町福島									館跡	山崎一「群馬県古城址の研究 上巻」1971.12
108	玉村町No150道跡	玉村町福島					○					82年度玉村町教育委員会試掘調査
109	福島稲荷木IV道跡	玉村町福島		○				○	○	○	水田、溝、井戸、土坑、墓	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書90集、福島稲荷木IV道跡・福島稲荷木IV道跡(第2次調査)」2011.12
110	玉村町No149道跡	玉村町福島										82年度玉村町教育委員会試掘調査
111	玉村町No583道跡	玉村町福島			○	○					遺物包含層	81年度玉村町教育委員会試掘調査
112	福島治部前道跡	玉村町福島					○	○	○		集落、溝、土坑、復土溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第53集、福島治部前道跡」2002.3
113	玉村町No571道跡	玉村町福島					○				集落?、水田	810年度玉村町教育委員会試掘調査
114	玉村町No83道跡	玉村町福島			○	○						820年度玉村町教育委員会試掘調査
115	福島曲戸道跡	玉村町福島			○	○	○	○			集落、墓、土師壺成道溝、水田、復土溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第309集、福島曲戸道跡・上福島道跡」2002.9
116	玉村町No600道跡	玉村町福島			○	○					集落、水田、溝、復土溝	812年度玉村町教育委員会試掘調査
117	玉村町No692道跡	玉村町福島					○				水田、土坑	84年度玉村町教育委員会試掘確認調査
118	屋敷道跡	玉村町福島					○				集落	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第24集、屋敷道跡(一次・二次調査)」1998.7
119	福島久保田道跡	玉村町福島		○				○	○		集落、墓、水田、屋敷、復土溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第317集、福島久保田道跡・福島大光坊道跡」2003.3、玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第63集、久保田道跡」2004.3
120	玉村町No512道跡	玉村町福島					○				水田	84年度玉村町教育委員会試掘調査
121	福島稲荷木III道跡	玉村町福島					○				水田、溝	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第84集、福島稲荷木道跡(第1次～3次調査)、福島稲荷木II道跡、福島稲荷木III道跡」2009.3
122	福島飯塚道跡	玉村町福島			○			○			水田、屋敷	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第400集、福島飯塚道跡(1)」2007.3、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第435集、福島飯塚道跡(2)」2008.3
123	福島大島道跡	玉村町福島					○	○	○		水田、溝、土坑、屋敷、復土溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第474集、福島大島道跡」2009.10
124	福島稲荷木I道跡	玉村町福島			○	○					集落	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第84集、福島稲荷木道跡(第1次～3次調査)、福島稲荷木II道跡、福島稲荷木III道跡」2009.3
125	福島稲荷木II道跡	玉村町福島					○				集落	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第84集、福島稲荷木道跡(第1次～3次調査)、福島稲荷木II道跡、福島稲荷木III道跡」2009.3
126	玉村町No549道跡	玉村町下新田					○				水田	88年度玉村町教育委員会試掘調査

No	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
127	八街北園・八街北区 遺跡	玉村町下新田	○	○			○	○	○	○	集落、水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第86集、原屋敷遺跡・八街北園・八街北区遺跡」2010.3
128	玉村町No151遺跡	玉村町福島					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
129	玉村町No152遺跡	玉村町福島					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
130	玉村町No715遺跡	玉村町福島		○	○						集落、水田	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
131	福島大光坊遺跡	玉村町福島	○				○	○	○		集落、土坑、水田、畑、復旧溝	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第317集、福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡」2003.3
132	玉村町No678遺跡	玉村町下新田					○					昭20年度玉村町教育委員会試掘調査
133	玉村町No159遺跡	玉村町福島					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
134	上飯島芝根Ⅱ遺跡	玉村町上飯島	○								集落、水田	玉村町遺跡調査会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第56集、上飯島芝根遺跡・上飯島芝根Ⅱ遺跡」2002.3
135	北小路遺跡	玉村町上飯島					○				水田	玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第55集、大神前遺跡・大明神遺跡・北小路遺跡」2002.3
136	玉村町No162遺跡	玉村町福島					○					昭1年度玉村町教育委員会試掘調査
137	玉村町No157遺跡	玉村町福島					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
138	玉村町No586遺跡	玉村町福島				○	○	○			水田、溝、屋敷、復旧溝	昭11年度玉村町教育委員会試掘調査
139	福島味噌袋遺跡	玉村町福島		○	○	○					集落、水田跡	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団昭27刊行予定
140	玉村町No156遺跡	玉村町福島					○					昭和62年玉村町教育委員会試掘調査
141	味噌袋・福島二丁目 遺跡	玉村町福島			○	○	○	○			溝、土坑、水田	玉村町遺跡調査会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第80集、味噌袋・福島二丁目遺跡、福島・南玉遺跡」2007.3
142	野屋敷遺跡	玉村町福島		○	○						水田、溝	平成11年度玉村町教育委員会調査
143	玉村町No166遺跡	玉村町南玉			○	○					水田	昭2年度玉村町教育委員会試掘確認調査
144	南玉二丁目遺跡	玉村町南玉			○	○	○	○			集落、古墳、水田、畑、復旧溝、溝	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団昭27刊行予定
145	玉村町No161遺跡	玉村町福島					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
146	玉村町No163遺跡	玉村町南玉					○					563年玉村町教育委員会試掘調査
147	玉村町No167遺跡	玉村町南玉			○	○					水田	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
148	玉村城(南玉原屋敷)	玉村町南玉						○			城館	山崎「群馬県古城城址の研究 上巻」1971.12
149	玉村町No134～137 遺跡	玉村町南玉			○						古墳	
150	福島・南玉遺跡	玉村町南玉		○	○	○					集落、溝、土坑	玉村町遺跡調査会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第80集、味噌袋・福島二丁目遺跡、福島・南玉遺跡」2007.3
151	南玉埋堀遺跡	玉村町南玉			○	○	○	○			集落、水田、畑、復旧溝	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団昭27刊行予定
152	利根浜遺跡	玉村町下之宮							○			玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集、利根浜遺跡」1998.5
153	玉村町No204遺跡	玉村町下之宮						○				昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
154	下之宮中沖遺跡	玉村町下之宮							○		畑、復旧溝、溝	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団昭27刊行予定
155	玉村町No207遺跡	玉村町下之宮							○			昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
156	玉村町No205遺跡	玉村町南玉							○			昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
157	玉村町No206遺跡	玉村町箱石							○			昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
158	玉村町No193遺跡	玉村町箱石			○						古墳	
159	社宮島古墳	玉村町南玉			○						古墳	清水和夫「社宮島古墳」『日本考古学年報』29 1978.4
160	玉村町No138遺跡	玉村町南玉			○						古墳	
161	玉村町No172遺跡	玉村町南玉				○	○				集落	昭3年度玉村町教育委員会試掘確認調査
162	下之宮高杉遺跡	玉村町下之宮						○	○		水田、畑、復旧溝	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団昭27刊行予定
163	玉村町No201遺跡	玉村町下之宮			○						古墳	
164	玉村町No202遺跡	玉村町下之宮			○						古墳	
165	玉村町No208遺跡	玉村町下之宮										昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
166	玉村町No199遺跡	玉村町下之宮			○						古墳	
167	玉村町No598遺跡	玉村町下之宮							○		溝	昭2年度玉村町教育委員会試掘調査
168	若宮古墳群	伊勢崎市東上之宮町			○						古墳	
169	玉村町No14遺跡	玉村町飯塚					○					昭2年度玉村町教育委員会試掘調査

第2章 立地と環境

No	遺跡名	所在	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・性格	備考
170	与六屋敷	玉村町与六分							○		屋敷	山崎一「群馬県古城原址の研究 補遺編 上巻」1979.10
171	玉村町No.29遺跡	玉村町樋越		○							古墳	
172	前通遺跡	玉村町藤川					○	○				玉村町教育委員会「玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第46集、民間開発(工場・倉庫建設)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、前通遺跡」2000.12
173	齊田西屋敷	玉村町齊田						○			屋敷	山崎一「群馬県古城原址の研究 補遺編 上巻」1979.10
174	天神古墳	玉村町福島		○							古墳	
175	藤川環濠集落	玉村町藤川						○			集落、堀	
176	飯塚環濠集落	玉村町飯塚						○			集落	
177	竹ノ内遺跡	玉村町福島		○		○	○				水田、溝、土坑	旧1年度玉村町教育委員会調査

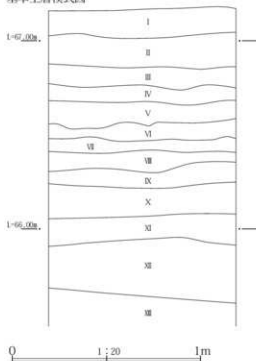
第3章 確認された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

本遺跡から検出された古代の遺構は、竪穴住居8軒、掘立柱建物1棟、土坑18基、井戸1基、ピット列3列、ピット24基、溝2条、焼土遺構3か所、性格不明遺構

2基である。調査面積は380㎡である。出土遺物の総量は遺物収納箱にして3箱である。また後代の影響を受けたためか、攪乱をうけたものがあつた。そのため掲載した遺物の中に本来の遺構とは時期のあわないものを多く含むこととなってしまった。

基本土層模式図

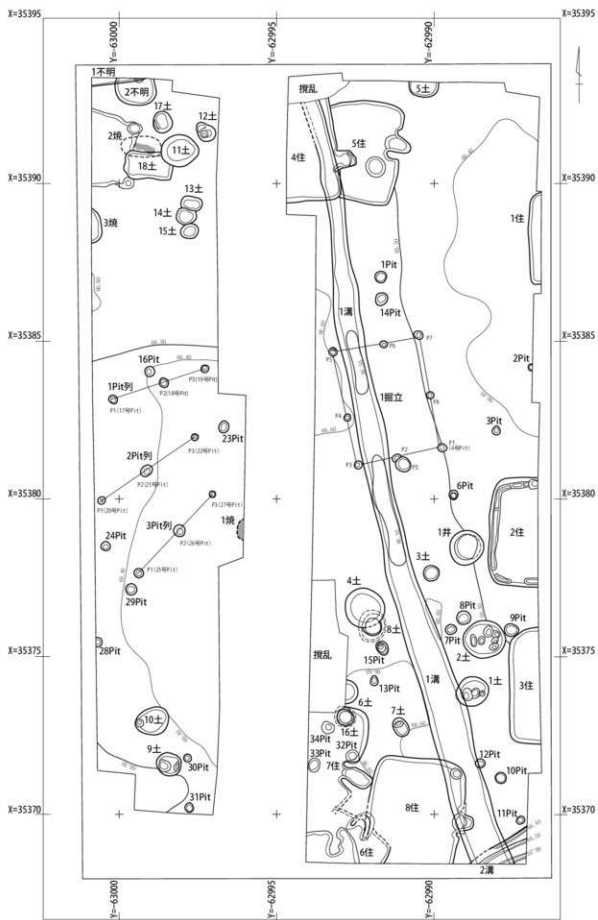


I層～VII層(1号住居)



VIII層～XIII層(旧石器確認2号トレンチ)

第6図 基本土層模式図



第7図 遺跡全体図 (1/120)

第2節 竪穴住居

確認された竪穴住居は8世紀代1軒、8～9世紀代1軒、9世紀代1軒、9～10世紀代2軒、10世紀代3軒の合計8軒であるが、全容の確認できた遺構は無い。またカマドの確認できた5軒中4軒は東辺にカマドを設けており、確認できなかった3軒も東カマドと推定される。

1号住居(第8図 PL. 2・16)

位置 X=35388 Y=-62986

形状・規模 調査区東辺に位置し、3辺は調査区外に伸びる。(0.42)×2.91m、(0.8)m、壁高9～10cm。平面形は隅丸方形が想定される。北西隅と南西隅の曲率は異なる。

主軸方位 不明。

覆土 VII層を掘り込む。炭化物・焼土粒・ローム粒を含む黒褐色粘質土に覆われる。

壁溝 なし。

カマド 不明。

掘り方 床面にはローム粒・炭化物少量を含む厚さ3cm程度の極暗赤褐色の粘床層が認められる。

重複関係 なし。

遺物 覆土中から須恵器碗(1)、土師器甕(2)ほか土師器片(76g)が出土している。

所見 本住居の年代は出土遺物から9世紀代に比定される。覆土出土の土師器甕(3)は混入である。

第2表 1号住居出土遺物観察表

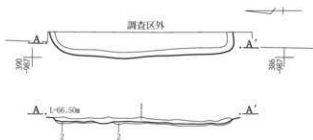
採 取 No.	種 類 種 別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第8回 PL.16	1 須恵器 碗	埋没土 口縁部小片			口クロ整形、回転方向不明。	
第8回 PL.16	2 土師器 台付甕	埋没土 底部～脚部1/3	脚 8.4	細砂粒/良好/にぶ い糖	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
第8回	3 土師器 甕	埋没土 口縁部片	口 16.7	細砂粒/良好/にぶ い糖	口唇部は横ナデ、口縁部は縦位のヘラ削り。	

2号住居(第9図 PL. 2・16)

位置 X=35379 Y=-62987

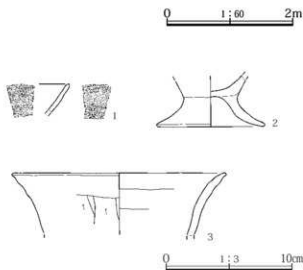
形状・規模 調査区東辺に位置し、半分ほどが調査区外に伸びると推測される。(1.44)×3.68m、(4.5)m、遺構断面から壁高19～29cm。平面形は隅丸方形と推測される。

主軸方位 不明。



1号住居

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む粘質土。
- 2 極暗赤褐色土(5YR2/3) ローム粒・炭化物を少量含む。



第8図 1号住居と出土遺物

覆土 ローム粒・炭化物を含む黒褐色粘質土とローム漸移層まじりの褐色土により覆われる。土層断面の観察では自然堆積と想定される。

壁溝 南西隅をはさむ2か所で途切れるが、幅7～11cm、深さ2～11cmの溝が四周すると考えられる。

カマド 不明。

掘り方 なし。

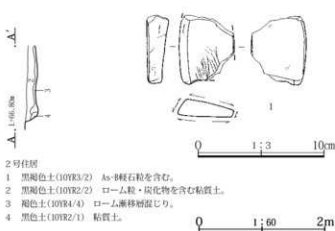
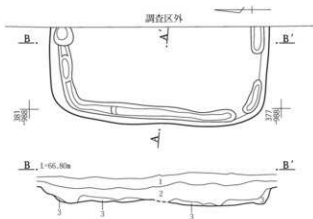
第3章 確認された遺構と遺物

重複関係 なし。

遺物 覆土中から砥石(1)ほか土師器や須恵器などの破片(121g)が出土している。土器片は平均3.6gの小片で資

料化できるものは無かった。

所見 本住居の年代は出土遺物から8世紀から9世紀代に比定される。



第9図 2号住居と出土遺物

第3表 2号住居出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9図 PL.16	1	石製品 砥石	埋没土 不明	長 幅 (3.6) (3.0)	厚 (1.2) 12.7	砥石	研面は4面認められる。正面は研ぎ減りにより僅かに内湾する。左右側面及び裏面はほぼ平坦である。上部及び下部の一部欠損。

3号住居(第10図 PL.2)

位置 X=35374 Y=-62987

形状・規模 調査区東辺に位置し、2/3は調査区外に伸びると推測される。(0.98)×3.71m、(2.65)m²、遺構断面から壁高25~30cm。平面形は隅丸方形と推測される。北西隅と南西隅の曲率は異なる。

主軸方位 不明。

覆土 床面はローム漸移層をブロック状に含み、炭化物を含む暗褐色土に覆われる。

壁溝 なし。

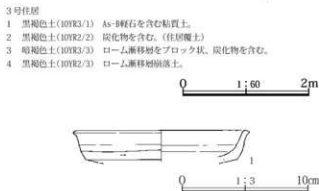
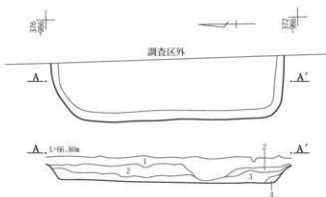
カマド 不明。

掘り方 なし。

重複関係 なし。

遺物 覆土中から須恵器杯(1)ほか土師器片(65g)が出土している。

所見 本住居の年代は出土遺物から8世紀代に比定される。



第10図 3号住居と出土遺物

第4表 3号住居出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口 底 13.0 12.0	細砂粒/還元焰/黄 灰	口縁口整形。回転方向不明。口縁部下半から底部は回転へら削り。	

4号住居(第11・12図 PL. 2・16)

位置 X=35391 Y=-62994

形状・規模 調査区中央部の未調査部にかかり、カマド側半分ほどが確認されるも隣接する掘乱により北東隅は確認されない。(1.77)×(3.30)m、(4.5)m、壁高18~22cm。

主軸方位 N-81°-E

覆土 床面は黒褐色土に覆われる。南壁側にローム漸移層ブロックを含む崩落土が認められる。土層断面の観察では自然堆積と想定される。

壁溝 なし。

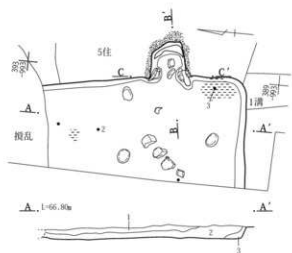
カマド 東辺の南寄りに位置する。燃焼部は粘土によって構築され、住居壁外に突出し、壁面と接する部位に袖石が残る。袖部の残存状態は左右で相違する。カマド内に灰は認められないが、燃焼部には炭化物を含む焼土がみられる。0.92×0.76m

掘り方 なし。

重複関係 5号住居および1号溝と重複。5号住居より新しい。

遺物 床面から須恵器羽釜(3)が、覆土中から須恵器椀(1)灰軸陶器皿(2)ほか土師器や須恵器などの破片(934g)が出土している。

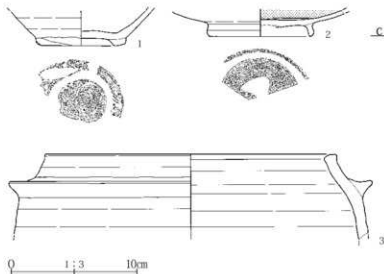
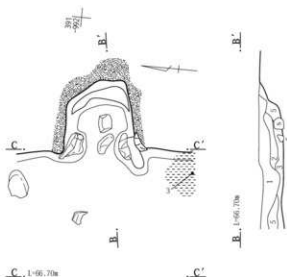
所見 本住居の年代は出土遺物から10世紀前半に比定される。覆土出土の灰軸陶器皿(4)土師器高杯(5)土師器甕(6)は混入である。



4号住居

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 焼土・炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 焼土・炭化物・ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム漸移層ブロックを含む。

0 1:60 2m

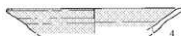


4号住居カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・炭化物を多く含む。(住居覆土)
- 2 暗赤褐色土(5YR3/2) 焼土・炭化物を含む。
- 3 黒褐色土(5YR2/2) 炭化物多い。焼土を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 粘土・ローム・炭化物を含む。袖部。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物を含む。(住居覆土)

0 1:30 1m

第11図 4号住居と出土遺物1



第12図 4号住居出土遺物2

0 1:3 10cm

第5表 4号住居出土遺物観察表

種 類 PL.No.	種 類 No.	種 類 種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第11図 PL.16	1	須恵器 椀	埋没土 底部1/2	底台 7.0 5.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄	口クロ整形、回転右回り。底部回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第11図 PL.16	2	灰釉陶器 皿	北東面床面上12 cm 底部1/2	底台 8.2 7.8	微砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。内面底部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 別
第11図 PL.16	3	須恵器 羽釜	南東面床面上直上、4号住居周 辺 上縁部～胴部片	口 22.8 28.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/不灰	口クロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
第12図	4	灰釉陶器 口縁部片	埋没土 口縁部片	口 13.5	微砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式別
第12図 PL.16	5	土師器 高杯	埋没土 胴部1/4	脚 19.5	細砂粒/良好/明赤 褐色	胴部上位に透孔が3か所。外面は放射状のヘラ着き、内面はヘラ削り。	
第12図	6	土師器 罫	埋没土 口縁部片		細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半から胴部はハケ目。内面はハケ目。	

5号住居(第13～15図 PL. 3・16)

位置 X=35391 Y=-62992

形状・規模 重複する4号住居により、西壁は確認できない。(2.19)×3.27m、(5.4)m、壁高3～9cm。カマド南西に長径0.65m、短径0.60m、深さ0.15mの掘り込みを持つ。掘り込みの長軸方向はN-31°-W。

主軸方位 N-99°-E

覆土 カマド周辺の床面は焼土粒、炭化物を含む黒褐色土に覆われる。

壁溝 なし。

カマド 東辺に位置する。カマドの中軸線は壁面ラインに対してやや斜めに、燃焼部の一部と煙道部は壁外に構築され、燃焼部は壁面との交差部に位置する。袖部の残存状態は左右で異なる。カマド奥壁を構築する粘土帯に近い位置から羽釜5点、甗1点が出土している。1.03×1.13m

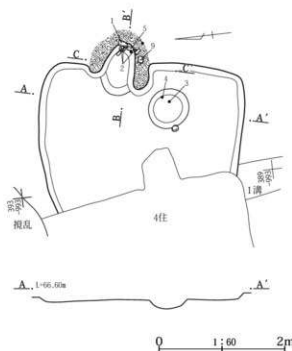
掘り方 なし。

重複関係 4号住居および1号溝と重複。4号住居に先行する。

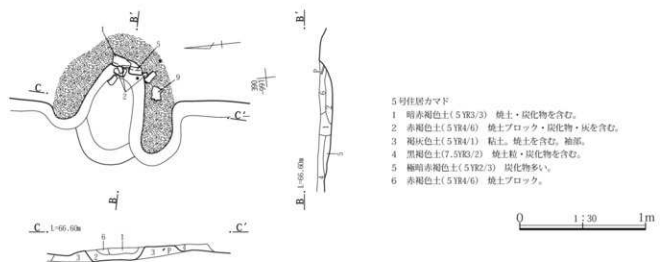
遺物 カマド内から須恵器椀(1)須恵器羽釜(2, 5, 6, 9, 10)が、住居内掘り込みからは須恵器羽釜(3, 4)が出土している。このほか覆土中から銅の溶融塊1点(7.61g)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破

片(839g)が出土している。

所見 本住居の年代は出土遺物から10世紀前半に比定される。覆土出土の土師器杯(7)須恵器甗(8)は混入である。



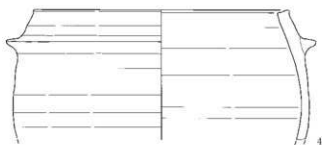
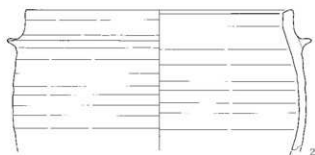
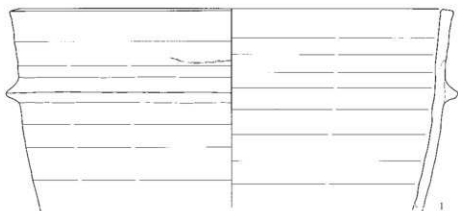
第13図 5号住居1



5号住居カマド

- 1 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土・炭化物を含む。
- 2 赤褐色土(5YR4/6) 焼土ブロック・炭化物・灰を含む。
- 3 褐灰色土(5YR4/1) 粘土。焼土を含む。袖部。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土粒・炭化物を含む。
- 5 極暗赤褐色土(5YR2/3) 炭化物多い。
- 6 赤褐色土(5YR4/6) 焼土ブロック。

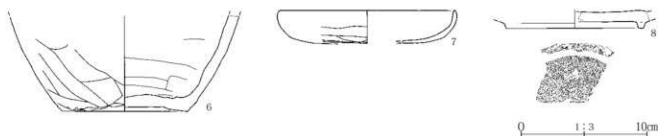
0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第14図 5号住居2と出土遺物1

第3章 確認された遺構と遺物



第15図 5号住居出土遺物2

第6表 5号住居出土遺物観察表

採 掘 PL. No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14図 PL. 16	1	須恵器 甗	カマド竪壁 口縁部~胴部中 位1/4	口 径	35.0 35.4	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面口縁部に輪積痕が残る。 罅は貼付。	
第14図 PL. 16	2	須恵器 羽釜	カマド竪壁 口縁部1/4	口 径	21.0 24.0	細砂粒/還元焰/粗	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第14図 PL. 16	3	須恵器 羽釜	住居内掘り込み 口縁部	口 径	19.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第14図 PL. 16	4	須恵器 羽釜	住居内掘り込み 口縁部~胴部上 位1/3	口 径	20.0 24.4	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第14図 PL. 16	5	須恵器 羽釜	カマド竪壁 口縁部片	口 径	19.0	細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第15図 PL. 16	6	須恵器 羽釜	カマド埋没上 底部片	底	10.0	細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。底部と胴部はへら削り。内面 はへらナデ。	
第15図	7	土師器 杯	埋没上 1/4	口 高	13.8 2.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第15図	8	須恵器 カマド埋没上 盤	カマド埋没上 底部片	底 台	11.2 10.9	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へらナデ、高台は 貼付。	
PL. 16	9	須恵器 羽釜	カマド壁外 胴部片			細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。	胴部にカマド 装着時の粘土 付着。
PL. 16	10	須恵器 羽釜	カマド埋没上 胴部片			細砂粒/還元焰/粗	ロクロ整形、回転方向不明。	

6号住居(第16・17図 PL. 3・16)

位置 X=35369 Y=-62993

形状・規模 調査区南辺中央部に位置する。重複する7号住居と8号住居および性格不明の遺構と切り合い、住居東壁の一部とカマド部周辺のみが確認される。本遺跡中で唯一主軸方位が北東を指す。(2.05)×(2.30)m、(2.8)m、壁高7~9cm。

主軸方位 N-37°-E

覆土 床面は若干の焼土粒を含む暗褐色土に覆われるが、カマド手前の床面は若干の炭化物、軽石粒を含む暗褐色土に覆われる。

壁溝 不明。

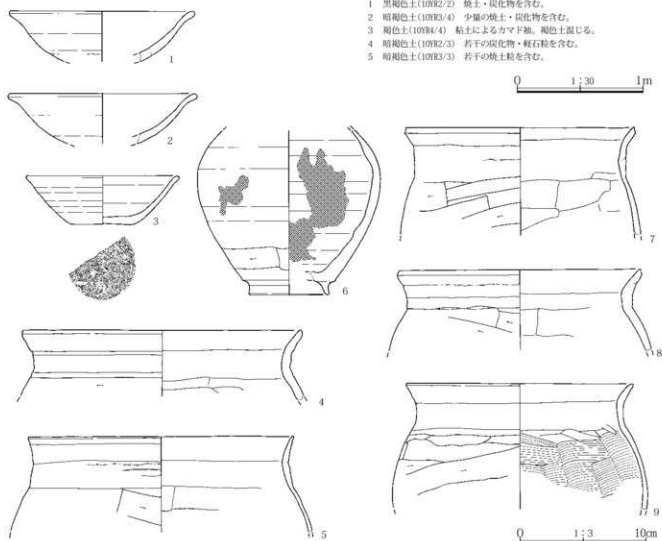
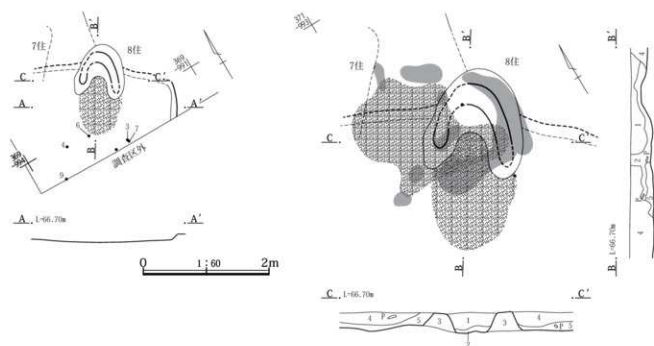
カマド 北辺に位置する。両袖とも住居内に突出し、燃焼部は住居内に位置する。焼土、灰が確認されているが

残り具合は良好とはいえない。0.83×0.80m

掘り方 床下より土器片2点が出土するが、遺構の遺存状態が好ましくなく確認できない。

重複関係 7号住居、8号住居と重複する。7号住居との関係は明確でないが、遺物からは本住居の方が古い。遺物 床面から須恵器甗(3)土師器甗(4)が出土している。このほか床下から内面に炭化物の付着した須恵器甗(6)土師器甗(9)が、また覆土中から刀子片(14)や須恵器甗(1,2)土師器甗(5,7,8,10,11)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破片(2,187g)が出土している。

所見 本住居の年代は出土遺物から9世紀後半から10世紀前半に比定される。覆土出土の土師器杯(12)須恵器杯蓋(13)は混入である。

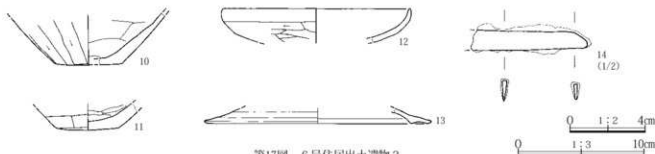


6号住居カマド

- 1 黒褐色土(10R2/2) 焼土・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土(10R3/4) 少量の焼土・炭化物を含む。
- 3 褐色土(10R4/4) 粘土によるカマド跡。褐色土混じる。
- 4 暗褐色土(10R2/3) 若干の炭化物・軽石粒を含む。
- 5 暗褐色土(10R3/3) 若干の焼土粒を含む。

第16図 6号住居と出土遺物1

第3章 確認された遺構と遺物



第17図 6号住居出土遺物2

第7表 6号住居出土遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第16図	1	須恵器 椀	埋没土 口縁部1/3	口 14.3		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい 胎付。	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 胎付。	
第16図	2	須恵器 椀	埋没土 中央床面直上	口 14.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい 胎付。	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 胎付。	
第16図 PL-16	3	須恵器 椀	中央床面直上 1/2	口 11.6 底 5.0	高 3.8	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第16図	4	土師器 甕	中央床面上4cm 口縁部片	口 21.9		細砂粒/良好/にぶ い胎	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第16図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 20.9		細砂粒/良好/にぶ い胎	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第16図 PL-16	6	須恵器 須恵壺	中央床面下5cm 胴部～底部1/3	底台 6.4 高 6.0	14.4	細砂粒/還元塩/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は胎付、胴部下位に回転ヘ ラ削り。	内外面にスス 付着。
第16図	7	土師器 甕	中央床面上11cm 口縁部片	口 17.9		細砂粒/良好/胎	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第16図	8	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口 19.0		細砂粒/良好/にぶ い胎	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第16図 PL-16	9	土師器 甕	中央床面下3cm 1号トレンチ 口縁部～胴部上 位1/3	口 17.8 胴 20.2		細砂粒/良好/にぶ い胎	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に 木口残るヘラナデ。	
第17図	10	土師器 甕	カマド埋没土 底部1/2	底 3.0		細砂粒/良好/にぶ い胎	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第17図	11	土師器 甕	埋没土 底部	底 5.0		細砂粒/良好/胎	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第17図	12	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口 14.7		細砂粒/良好/にぶ い胎	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第17図	13	須恵器 杯蓋	カマド埋没土 口縁部片	口 17.4		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。内面にカエリを有す。	
第17図 PL-16	14	鉄製品 刀子	埋没土 破片	長 6.3 幅 1.6	厚 0.8 重 8.19		刀子の掌部破片。劣化が著しく硬い跡に覆われ本体は須恵 丹・焼銅ともには確認できない。刃先端側は酸化炭素付す る。跡びに覆われ木質等の痕跡は確認できない。	

7号住居(第18・19図 PL. 3・4・17)

位置 X=35372 Y=-62994

形状・規模 調査区南端中央部に位置し、住居の西半分は未調査部に伸びると推測される。掘乱および6号住居との切り合いにより、北東隅およびカマド部周辺のみが確認される。(1.87)×(3.50)m、(4.3)m、壁高15～16cm。

主軸方位 N-108°-E

覆土 カマド周辺の床面は若干の焼土、炭化物を含む暗褐色土に覆われる。

壁溝 不明。

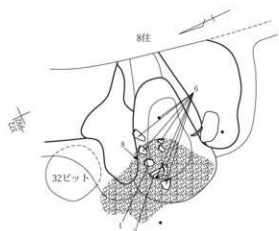
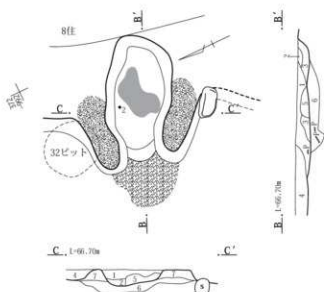
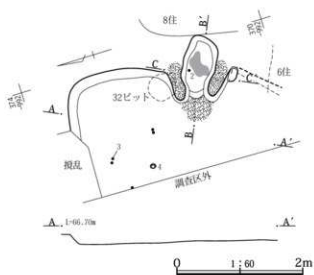
カマド 東辺に位置する。燃焼部は住居壁面との交差部付近に位置する。天井部は残存していないが、焚口は確認され、右側では袖部脇に礎が残存していた。なお、奥

壁側に粘土帯は認められない。カマド掘り方から土器片10点余りが出土している。1.07×0.98m

掘り方 なし。

重複関係 6号住居および16号土坑、32から34号ピットと重複。16号土坑および32から34号ピットより新しい。6号住居との関係は明確でないが、遺物からは本住居の方が新しい。

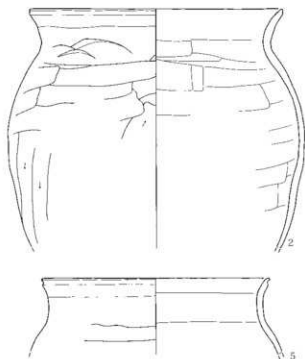
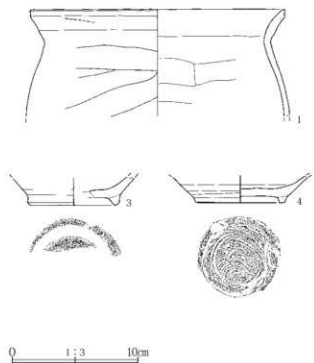
遺物 カマドから土師器甕(1,2)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破片(1.947g)が出土している。所見 本住居の年代は出土遺物から10世紀前半に比定される。カマド掘り方出土の土師器杯(8)須恵器壺(6)、覆土出土の土師器杯(7)須恵器椀(3,4)須恵器蓋(9)土師器甕(5,10)は混入である。



7号住居カマド

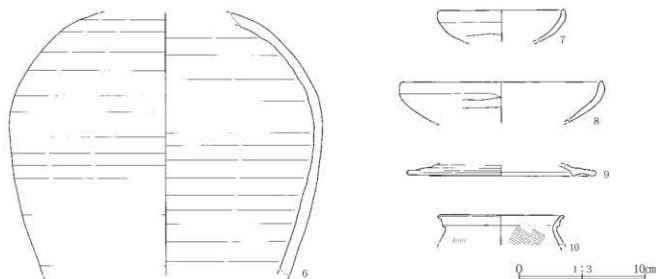
- 1 暗赤褐色土(5YR3/2) 焼土粒・炭化物多い。
- 2 にふい赤褐色土(5YR4/3) 焼土ブロック。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 焼土・炭化物を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 焼土・炭化物を含む。
- 5 暗赤褐色土(5YR3/4) ϕ 2~3cmの焼土ブロックを多く含む。
- 6 暗赤褐色土(5YR2/4) ϕ 2~3mmの焼土粒・炭化物を含む。
- 7 灰褐色土(5YR4/2) 粘土によるカマド軸。

0 1:30 1m



第18図 7号住居と出土遺物1

第3章 確認された遺構と遺物



第19図 7号住居出土遺物 2

第8表 7号住居出土遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 種 別	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第18図 PL.17	1	土師器 甕	カマド振り方 口縁部片	口 20.0	細砂粒/良好/ぶ い橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第18図 PL.17	2	土師器 甕	カマド燃焼部 口縁部～胴部下 位1/3	口 19.8 22.5	細砂粒/良好/明 黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第18図 PL.17	3	須恵器 椀	北部床面上7cm 底部1/3	底台 7.2 6.6	細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第18図 PL.17	4	須恵器 椀	中央床面上7cm 底部片	底台 7.3 7.0	細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第18図 PL.17	5	土師器 甕	埋没上 口縁部片	口 17.8	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第19図 PL.17	6	須恵器 壺	カマド振り方 胴部1/3	胴 24.7	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	長頸蓋または 広口壺
第19図 PL.17	7	土師器 杯	埋没上 口縁部片	口 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第19図 PL.17	8	土師器 杯	カマド振り方 口縁部片	口 15.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第19図 PL.17	9	須恵器 杯蓋	埋没上 蹄部片	口 14.5	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。内面にカエリを有す。	
第19図 PL.17	10	土師器 台付甕	埋没上 口縁部片	口 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり6本)、内面胴部もハケ目。	

8号住居(第20・21図 PL.3・4・5・17)

位置 X=35370 Y=-62590

形状・規模 調査区南端に位置する。南辺は調査区外に、また南西部は6号住居と切り合う。3.02×(3.40)m、(8.6)m、壁高8～20cm。北東隅にピットを伴う。ピットは長径0.36m、短径0.33m、深さ0.20mの長円形、長軸の方位はN-51°-W。南西部床面に炭化が認められる。主軸方位 N-103°-E

覆土 ローム粒・炭化物・焼土を含む暗褐色土に覆われる。土層断面の観察では自然埋没と想定される。

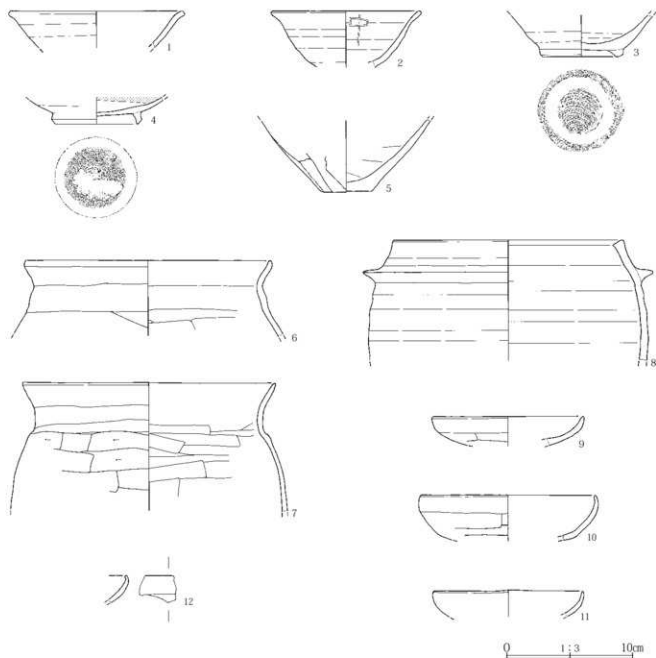
壁溝 明確な溝は確認されていないが、住居断面北壁寄りの浅い窪みはその痕跡とも考えられる。

カマド 東辺に位置する。燃焼部は粘土帯に囲まれ、住居壁面との交差部に位置する。袖部は住居内へ突出する。袖部の残存状態は左右で相違するが、いずれも短い。カマド手前に炭化面が残る。0.89×0.95m

振り方 5～12cmの振り込みが認められる。カマドの南側に更に8cm程度の深さの不定形の振り込みが存在する。

重複関係 6号住居および1号溝と重複。両者より古い。遺物 床面から須恵器椀(3)、振り方から土師器甕(5、6)、カマドから須恵器椀(1)須恵器羽釜(8)が出土している。このほか覆土中から須恵器椀(2)灰釉陶器椀(4)ほか土師器や須恵器などの破片(2,674g)が出土して

第3章 確認された遺構と遺物



第21図 8号住居出土遺物

第9表 8号住居出土遺物観察表1

挿入 図No.	No.	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL.17	1	須恵器 輪	カマド埋没土 口縁部片	口 13.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口クロ整形、回転右回りか。	
第21図 PL.17	2	須恵器 輪	埋没土	口 11.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	口クロ整形、回転右回りか。	内面口縁部に 「中」の刻書。
第21図 PL.17	3	須恵器 輪	中央床面直上 底部のみ	底台 6.6 5.6	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第21図 PL.17	4	灰輪陶器	西壁寄床面直上 底部のみ	底台 7.0 6.4	微砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	口クロ整形、回転右回りか。底部は回転へラナデ、高台は 貼付。施軸方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期
第21図 PL.17	5	土師器	掘り方中央南寄 底部のみ	底 4.0	細砂粒/良好/黒濁	底部と胴部はへラ削り。内面はへラナデ。	
第21図 PL.17	6	土師器	掘り方南東隅寄 口縁部片	口 19.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部が へラナデ。	
第21図 PL.17	7	土師器	南部床面直上10cm カマド掘り方 口縁部～胴部上 位1/4	口 19.8	細砂粒/良好/にぶ い赤濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部が へラナデ。	

第10表 8号住居出土土物観察表2

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第21図 PL.17	8	須恵器 羽釜	カマ下埋没土 口縁部~胴部上 位片	□ 18.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	口縁整形、回転方向不明。跡は貼付。	
第21図	9	土師器 杯	埋没土 口縁部片	□ 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナテ、体部と底部はヘラ削り。	
第21図	10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	□ 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナテ、体部と底部はヘラ削り。	
第21図	11	土師器 杯	埋没土 口縁部片	□ 11.6	細砂粒/良好/に 少し黄相	器面磨減のため整形不明。	
第21図	12	土師器 杯	埋没土 口縁部片		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナテ、体部はヘラ削り。	

第3節 掘立柱建物

調査区中央部北東寄りの地点から1棟が検出された。

1号掘立柱建物(第22図 PL. 5)

位置 X=35383 Y=-62991

形状・規模 平面形状は南北に長い2間×2間の長方形。短辺2.73m、長辺3.64mをはかる。

長軸方向 N-10°-W

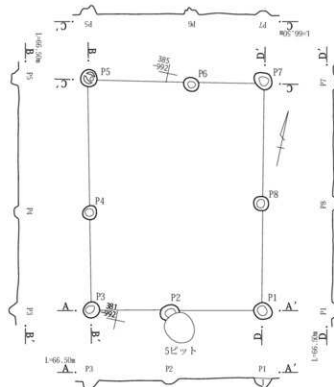
柱穴 平面形状は楕円形、径0.22~0.32m、深さ0.06~0.17m。桁柱間は南側がやや狭い。梁柱間は北辺は東が、南辺は西がやや狭い。

柱穴覆土 灰黄褐色土が少量混じる黒褐色土、しまり弱くやや粘性あり。

重複関係 1号溝および5号ピットと重複。5号ピットより古い。

遺物 覆土中より土師器片(11g)が出土しているが、資料化できるものは無かった。

所見 本遺構の年代はP1および5号ピットの覆土から、10世紀代に比定できる。



1号掘立柱建物
P1 (4号ピット)

1 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土(10YR4/2)が少量混じる。しまり弱、粘性ややあり。

1号掘立柱建物、他の柱穴覆土も同様

第22図 1号掘立柱建物

第11表 1号掘立柱建物計測表

平面形	長方形	規模	2間×2間	長軸方向	N-10°-W	面積(m ²)	10.1
桁行(m)	梁行(m)	桁柱間(m)	梁柱間(m)	平面形	規模(長、短、深) m	長軸方向	重複
P5-P3:3.64	P5-P7:2.81	P5-P4:2.10	P5-P6:1.64	P1	楕円形	0.30, 0.26, 0.17	N-103°-E
P6-P2:3.63	P4-P8:2.74	P4-P3:1.54	P6-P7:1.16	P2	不明	0.31, (0.22), 0.08	N-45°-E
P7-P1:3.60	P3-P1:2.73	P7-P8:1.95	P3-P2:1.28	P3	円形	0.26, 0.24, 0.13	
		P8-P1:1.68	P2-P1:1.47	P4	円形	0.23, 0.22, 0.06	
				P5	円形	0.27, 0.26, 0.14	
				P6	長円形	0.24, 0.22, 0.12	N-121°-E
				P7	長円形	0.32, 0.25, 0.06	N-120°-E
				P8	円形	0.25, 0.24, 0.07	

第4節 溝

2条が検出された。1号溝は調査区を南北に走行し、2号溝は調査区南東隅を横切るように位置する。

1号溝(第23図 PL. 5・17)

位置 X=35368~35392 Y=-62987~-62994

形状・規模 概ね標高66.50mの等高線に並走し、幅0.5~1.3mで調査区を南北に縦断する。断面形状は浅い皿状だが、東端寄りの位置に幅12cmの深みが存在する。確認された深さは一段深い部位で15cm、皿状部で1~11cmと極めて浅い。底面標高は南端部66.51m、中央部66.47m、北端部66.52m。勾配らしき勾配は認められない。北端は擾乱により消滅し確認されない。検出長24.95m。

覆土 褐灰色でややざらつき、若干の軽石粒を含む。

重複関係 4号住居、5号住居、8号住居、1号掘立柱建物、1号土坑、12号ピット、2号溝と重複。検出層位から最上面に位置し新しい。

遺物 溝底面より板碑片(4)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破片(475g)が出土している。

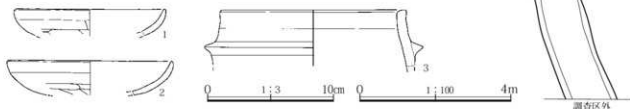
所見 出土遺物から、本遺構は中世以降に埋没したと推測される。覆土出土の土師器杯(1,2)須恵器羽釜(3)は混入である。南端と北端の高低差から本溝の勾配は1/2.495となる、流水の痕跡は認めがたい。

2号溝(第24図 PL. 5)

位置 X=35368・35369 Y=-62987・-62988

形状・規模 断面形状は二段底の様相を呈するが、調査区南東端を斜めに切るように位置するため、全容はうかがえない。検出長2.18m、幅(0.98)m。底面標高66.12m、深さ0.42m。

覆土 6層を除き覆土はいずれもローム粒ないしローム



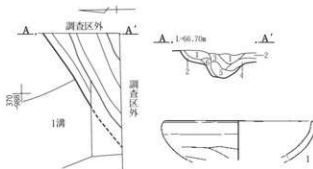
第23図 1号溝と出土遺物

ブロックを含む。いずれの土層にも軽石粒の混入はない。
重複関係 1号溝と重複。1号溝より古い。

遺物 覆土中より土師器杯(1)ほか土師器や須恵器など

第12表 1号溝出土遺物観察表

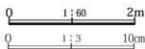
採 取 PL.No.	種 類 No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第23図	1	土師器 杯	埋没上 口縁部小片	□ 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はへう削り。	
第23図	2	土師器 杯	埋没上 口縁部小片	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへう削り。	
第23図	3	須恵器 羽釜	埋没上 口縁部片	□ 14.6 □ 17.2	細砂粒/酸化焙/に ぶい橙	口縁部整形、回転方向不明。踵は貼付。	
第23図 PL.17	4	石造物 板碑片	底面上1cm 不明	長 (13.9) 幅 (7.8) 厚 (1.3) 重 195.0	緑色片岩	中部破片。上下欠。やや浅い葉形彫りの種子の一部が残る。碑面はやや摩滅する。裏面は剥落する。	



第24図 2号溝と出土遺物

2号溝

- 暗褐色土(10R3/3) ローム粒・灰黄褐色粒を3%含む。
- にぶい黄褐色土(10R4/3) ローム粒をわずかに含む。しまり強。
- オリブ褐色土(2.5R3/4) ローム粒・ロームブロック(0.5~1cm)を30%含む。しまりやや強。
- 黒褐色土(10R3/2) ローム粒(1~5mm)を3%含む。しまり強。
- 黒褐色土(10R3/2) ロームブロック(0.5~1cm)をごく少量含む。しまりやや弱。粘性あり。
- 黒褐色土(10R3/1) 土質均一。しまりやや強。



第13表 2号溝出土遺物観察表

採 取 PL.No.	種 類 No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第24図	1	土師器 杯	埋没上 口縁部片	□ 11.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はへう削り。	

第5節 井戸

調査区東辺寄りのやや南に位置する場所から集落に伴うと思われる井戸が検出された。

1号井戸(第25図 PL.6)

位置 X=35377・35378 Y=-62988・-62989

形状・規模 上端部差し渡し1.10m、平面形状はほぼ円形。開口部は血形に開き、断面形状は開口部から一段下がった位置にくびれがある。くびれ部は20cm程度の高低差で、西高東低の傾きを持つ。

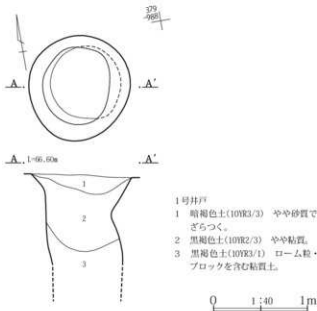
遺存状態 確認面下1.0mでは湧水は認められない。

覆土 砂質の土層の下に粘質の土層が続く。

重複関係 なし。

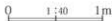
遺物 覆土中より土師器や須恵器などの破片(190g)が出土しているが、資料化できるものは無かった。

所見 木杵や石組等の存在を示唆する痕跡は認められないため、素掘りの井戸と推測される。



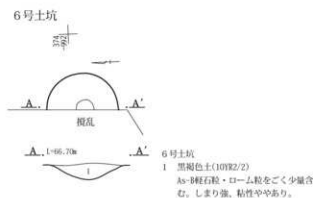
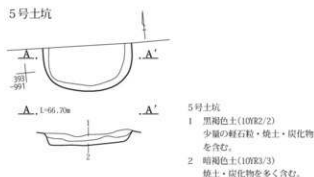
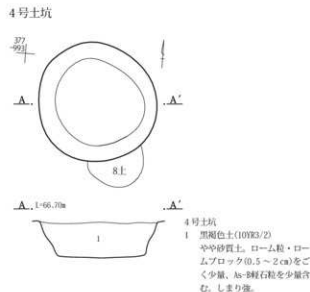
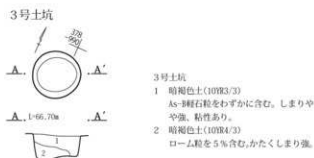
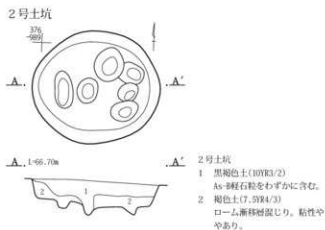
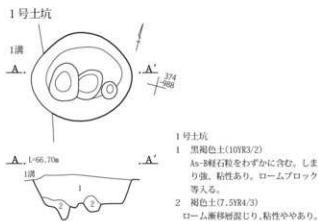
第25図 1号井戸

- 1号井戸
- 暗褐色土(10R3/3) やや砂質でざらつく。
 - 黒褐色土(10R2/3) やや粘質。
 - 黒褐色土(10R3/1) ローム粒・ブロックを含む粘質土。



第6節 土坑・ピット列・ピット

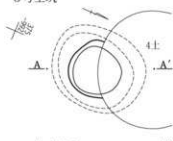
(第26～34図 PL. 6～14・17・18)



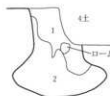
0 1:40 1m

第26図 1～7号土坑

8号土坑



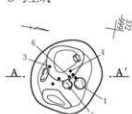
A., l=66.70m A.′



8号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)
ロームブロック、若干のAs-Bを含む粘質土。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
ローム断縁部を包む粘質土。

9号土坑



A., l=46.60m A.′



9号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
焼土粒・炭化物を含む粘質土。

10号土坑



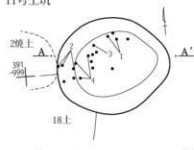
A., l=46.60m A.′



10号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
As-Bをごく少量含む。

11号土坑



A., l=46.60m A.′



11号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)
As-B軽石粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)
As-B軽石粒をわずかに含む。しまり強。粘性ややあり。

12号土坑



A., l=46.50m A.′



12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
ロームブロック・焼土・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)
焼土・炭化物を含む。
- 3 黒褐色土(7.5YR2/2)
φ 2~3cmのロームブロックを含む。

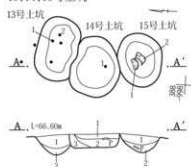
16号土坑



A., l=46.50m A.′



13, 14, 15号土坑



13, 14, 15号土坑

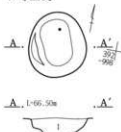
- 1 黒褐色土(10YR3/1)
黄色軽石粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/3)
黄色軽石粒・焼土粒・少量の炭化物を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)
ローム断縁部に焼土・若干の炭化物を含む。

0 1:40 1m

第27図 8~16号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

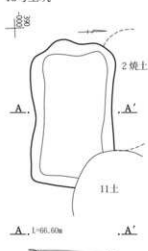
17号土坑



17号土坑

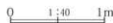
1 黒褐色土(10R3/2)
 φ 2~3 cmのかたいロームブロックを少量、As-B軽石殻をごく少量含む。かたし、まり強。

18号土坑



18号土坑

1 黒褐色土(10R2/2)
 φ 1~3 mmのローム粒を含む。

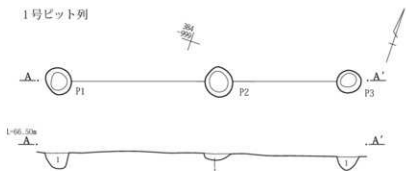


第28図 17,18号土坑

第14表 土坑一覧表1

	検出位置	平面形状	規模(長、短、深)mm	長軸方向	重複遺構	その他
	1号土坑 X=35373-35374 Y=-62988-62989	長円形	1.05, 0.91, 0.51	N-72°-E	1号溝	底部の小穴を埋めたのち埋設している。
	2号土坑 X=35374-35376 Y=-62987-62989	長円形	1.35, 1.18, 0.47	N-88°-E		中央部の小穴は土坑が半分埋没してから掘削されている。
	3号土坑 X=35377 Y=-62989-62990	円形	0.51, 0.49, 0.26	N-68°-E		
	4号土坑 X=35375-35377 Y=-62991-62992	円形	1.28, 1.24, 0.40	N-53°-W	8号土坑	8号土坑より新しい。
	5号土坑 X=35392-35393 Y=-62989-62990	不明	0.94, (0.48), 0.12			
	6号土坑 X=35373-35374 Y=-62992	不明	0.76, (0.40), 0.17			
	7号土坑 X=35372-35373 Y=-62990-62991	長円形	0.62, 0.46, 0.34	N-31°-W		
	8号土坑 X=35375-35376 Y=-62991-62992	円形	1.00, 0.85, 0.95	N-21°-W	4号土坑	断面形状:下部袋状に広がる。開口部0.60m。下部長軸方向:N-3°-W
	9号土坑 X=35371 Y=-62998	円形	0.80, 0.76, 0.26	N-48°-W		
	10号土坑 X=35372-35373 Y=-62998-62999	長円形	1.08, 0.87, 0.17	N-67°-E		
	11号土坑 X=35390-35391 Y=-62997-62998	長円形	1.19, 1.02, 0.26	N-87°-E	18号土坑	18号土坑より新しい。
	12号土坑 X=35391 Y=-62996-62997	卵形	0.69, 0.55, 0.57	N-39°-W		
	13号土坑 X=35389 Y=-62997-62998	隅丸方形	0.67, (0.44), 0.26	N-80°-W	14号土坑	14号土坑より古い。
	14号土坑 X=35388-35389 Y=-62997-62998	長円形	0.65, 0.53, 0.13	N-81°-E	13号土坑	
	15号土坑 X=35388 Y=-62997-62998	長円形	0.57, 0.47, 0.18	N-71°-E		
	16号土坑 X=35372-35373 Y=-62992-62993	円形	0.72, 0.67, 0.91	N-39°-W	7号住居	7号住居より古い。
	17号土坑 X=35391-35392 Y=-62998	長円形	0.67, 0.62, 0.19	N-16°-W		
	18号土坑 X=35390-35391 Y=-62998-62999	隅丸方形	1.55, 0.91, 0.24	N-88°-E	11号土坑, 2号焼土	2号焼土より古い。
備考	<p>調査区を南北に四分した、中央部北寄りの一画からは土坑は検出されていない。 断面形状から平底のもの(P)とそうでないもの(R)、底面に小穴のあるもの(P)ともいものに大別できる。 この二つの指標を組み合わせることで土坑は4タイプ(F, F P, R, R P)に区分できる、また例外として断面形状が袋状をなす土坑(B)が2基ある。 F(3, 4, 5, 11, 14, 18号土坑)は主に調査区北半に分布する。 F P(1, 2, 7号土坑)は調査区南東部に分布する。 R(6, 13, 15, 17号土坑)は主に調査区西半に分布する。 R P(9, 10, 12号土坑)は主に調査区南西部に分布する。 B(8, 16号土坑)は調査区南東部に存在している。 平面形状からは円形に近いもの(C)・方形に近いもの(S)・その中間形態のもの(O)に三分される。例外として不定形の土坑(12号土坑)が1基ある。 S(13, 18号土坑)は調査区北部に存在している。 O(1, 2, 7, 10, 11, 14, 17号土坑)は調査区中央部に分布しない。 C(3, 4, 8, 9, 15, 16号土坑)の分布については法的な証明性は認められない。</p>					

1号ピット列



1号ピット列

P1 (17号ピット)

1 灰黄褐色土(10YR4/2) As-B・焼土粒をわずかに含む。しまり強。

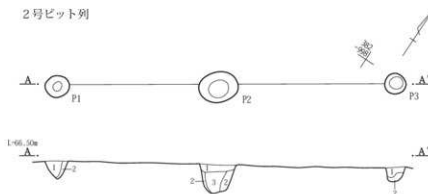
P2 (18号ピット)

1 黒褐色土(10YR3/2) As-B軽石粒をごく少量含む。かたくしまり、粘性ややあり。

P3 (19号ピット)

1 灰黄褐色土(10YR4/2) As-Bをわずかに含む。やわらかく粘性あり。

2号ピット列



2号ピット列

P1 (20号ピット)

1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒をごく少量含む。やわらかく粘性あり。

2 にかい黄褐色土(10YR4/3) かたいロームブロック(0.5~2cm)を10%含む。しまり強。

P2 (21号ピット)

1 オリーブ褐色土(2.5Y5/3) ロームブロックを含む。もろく崩れやすい。

2 黄褐色土(2.5Y5/4) 1層とかたいロームブロックとの混土。

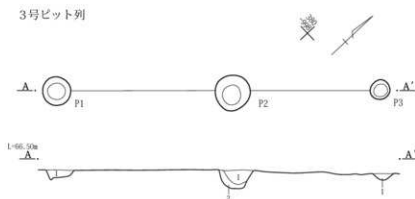
3 にかい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒・ロームブロック(0.5~1cm)を10%含む。しまりやや強、粘性あり。

P3 (22号ピット)

1 暗褐色土(10YR3/4) As-B軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。しまりやや強、粘性あり。

2 暗褐色土 にかいロームブロック(1cm)を少量含む。しまりやや強。

3号ピット列



3号ピット列

P1 (25号ピット)

1 灰黄褐色土(10YR4/2) As-B・ローム粒をわずかに含む。かたくしまり強。

P2 (26号ピット)

1 黒褐色土(10YR2/3) かたいロームブロック(1~2cm)をごく少量含む。やわらかく粘性あり。

2 黄褐色土(2.5Y5/4) 1層とかたいロームブロックとの混土。

P3 (27号ピット)

1 灰黄褐色土(10YR4/2) As-Bをわずかに含む。やわらかく粘性あり。

第29図 1~3号ピット列

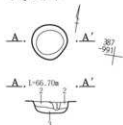
0 1:40 1m

第15表 ピット列一覧表

1号 ピット列	上段主軸方位、下段 位置	検出位置		平面形状	規模(長、短、深) ■	長軸方向(度)	柱間 (芯々距離) ■	調査時名称
		P1	P2					
1号 ピット列	N-70°-E X=35383 ~ 35384 Y=62997 ~ 63000	P1	X=35383 Y=63000	長円形	0.29, 0.24, 0.17	N-44°-W	P1-P2:1.68	17号ピット
		P2	X=35383 Y=62998	円形	0.31, 0.29, 0.05	N-30°-W	P2-P3:1.37	18号ピット
		P3	X=35384 Y=62997	円形	0.26, 0.24, 0.14	N-57°-E	P1-P3:3.05	19号ピット
2号 ピット列	N-56°-E X=35379 ~ 35382 Y=62997 ~ 63000	P1	X=35379・35380 Y=63000	円形	0.26, 0.23, 0.21	N-54°-E	P1-P2:1.70	20号ピット
		P2	X=35380・35381 Y=62998・62999	長円形	0.42, 0.32, 0.30	N-55°-E	P2-P3:1.87	21号ピット
		P3	X=35381・35382 Y=62998	円形	0.22, 0.22, 0.14		P1-P3:3.57	22号ピット
3号 ピット列	N-44°-E X=35377 ~ 35380 Y=62996 ~ 62999	P1	X=35378 Y=62999	円形	0.31, 0.29, 0.10	N-54°-W	P1-P2:1.85	25号ピット
		P2	X=35378・35379 Y=62997・62998	円形	0.38, 0.37, 0.18	N-39°-E	P2-P3:1.56	26号ピット
		P3	X=35380 Y=62996・62997	円形	0.22, 0.20, 0.07	N-36°-W	P1-P3:3.41	27号ピット

第3章 確認された遺構と遺物

1号ピット



1号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
As-B軽石粒をごく少量含む。かたくしまり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
As-B軽石粒をわずかに含む。しまり強、粘性ややあり。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)
ローム粒をわずかに含む。しまりやや弱、粘性あり。

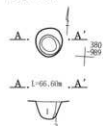
3号ピット



3号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
As-B軽石粒(0.5～1mm)・ローム粒(10YR4/3)にふい黄褐色土をごく少量含む。しまりやや強。

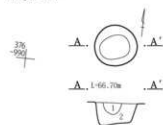
6号ピット



6号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
灰黄褐色土(10YR4/2)が少量混じる。しまり強、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
As-B軽石粒をわずかに含む。しまり強、粘性ややあり。

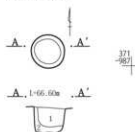
8号ピット



8号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
灰黄褐色土(10YR4/2)が少量混じる。しまり弱、粘性ややあり。
- 2 にふい黄褐色土(10YR4/3)
As-B軽石粒をわずかに含む。ローム粒混じり。しまりやや強。

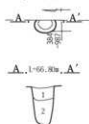
10号ピット



10号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
灰黄褐色土(10YR4/2)が少量混じる。しまり弱、粘性ややあり。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)
ローム粒をわずかに含む。しまりやや弱、粘性あり。

2号ピット



2号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
As-B軽石粒(灰白色 0.5～1mm)を5%含む。かたくしまり強。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)
As-B軽石粒(0.5～1mm)・ローム粒(10YR4/3)にふい黄褐色土をごく少量含む。しまりやや強。

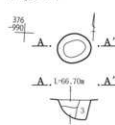
5号ピット



5号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)
暗褐色土(10YR3/1)混じり、わずかにAs-B軽石粒を含む。しまりやや強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒を少量含む。1層が少量混じる。しまりやや強。

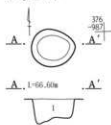
7号ピット



7号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/1)
As-B軽石粒をごく少量含む。やや粘り強、しまり強。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)
土質均一。しまりやや弱、粘性あり。
- 3 にふい黄褐色土(10YR4/3)
As-B軽石粒をわずかに含む。ローム粒混じり。しまりやや強。

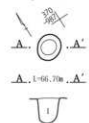
9号ピット



9号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
As-Bをわずかに含む。ローム土混じり。しまりやや強、粘性あり。

11号ピット



11号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/2)
やや粗い砂質土。灰黄褐色土(10YR4/2)が少量混じる。しまり強。

第30図 1～3, 5～11号ピット

12号ピット



1溝



12号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)
ローム粒をわずかに含む。しまりやや強、粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒・ロームブロック(1~5mm)を5%含む。しまりやや強。

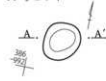
13号ピット



13号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)
As・硬石粒をごく少量含む。かたくしまり、粘性ややあり。

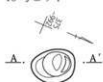
14号ピット



14号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)
As・焼土粒・炭化物をわずかに含む。
ローム土少量混じる。しまりやや強。

15号ピット



15号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)
ローム漸移層を含む硬質土。

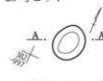
16号ピット



16号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)
As・S・焼土粒をわずかに含む。しまり強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
φ0.5~2cmのかたいロームブロックを少量含む。しまり強。

23号ピット



23号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
かたいロームブロック(1~2cm)をわずかに含む。やわらかく粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
φ0.5~2cmのかたいロームブロックを少量含む。しまり強。

24号ピット



24号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒をわずかに含む。やわらかく粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
φ0.5~2cmのかたいロームブロックをごく少量含む。しまり強。

28号ピット



28号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
かたいロームブロック(1~2cm)をわずかに含む。やわらかく粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
φ0.5~2cmのかたいロームブロックをごく少量含む。しまり強。

29号ピット



29号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
土質均一。やわらかく粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
φ0.5~2cmのかたいロームブロックを少量含む。しまり強。

0 1:40 1m

第31図 12~16,23,24,28,29号ピット

第3章 確認された遺構と遺物

30号ピット



30号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
As-細粒石粒(灰白色 0.5~1mm)・黒褐
(10YR2/3)ロームをわずかに含む。かたく
しり強、粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
かたいロームブロック(1~2cm)を少量含
む。しり弱、粘性あり。

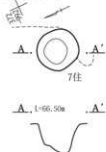
31号ピット



31号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)
As-細粒石粒(灰白色 0.5~1mm)・黒褐
(10YR2/3)ロームを少量含む。かたくし
り強、粘性あり。

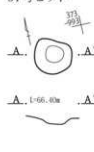
32号ピット



33号ピット



34号ピット



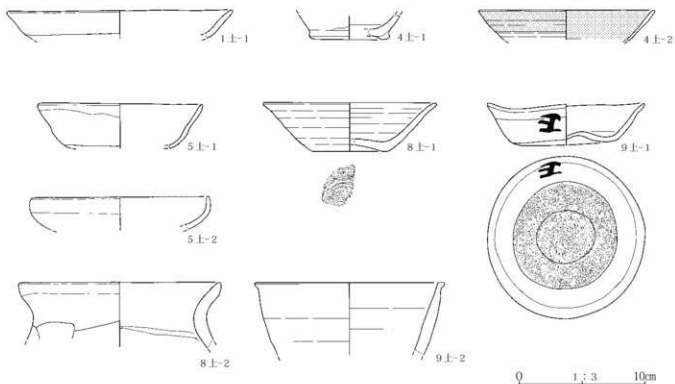
第32図 30~34号ピット

第16表 ピット一覧表

ピット	検出位置	平面形状	規模(長、短、深)m	長軸方向	重複遺構	遺物	所見
1号ピット	X=35386・35387 Y=62991	円形	0.37、0.37、0.13	N-6°-E			
2号ピット	X=35384 Y=62986・62987	不明	0.23、(0.13)、0.41	N-9°-E			
3号ピット	X=35382 Y=62987・62988	卵形	0.29、0.26、0.18	N-9°-E			
5号ピット	X=35380・35381 Y=62990・62991	円形	0.49、0.44、0.31	N-49°-W	1号掘立柱建物P2		1号掘立柱建物P2より新しい。
6号ピット	X=35379・35380 Y=62989	円形	0.31、0.28、0.24	N-3°-W			
7号ピット	X=35376・35376 Y=62990	隅丸方形	0.35、0.31、0.22	N-67°-E			
8号ピット	X=35376 Y=62988・62989	円形	0.45、0.43、0.23	N-63°-W			
9号ピット	X=35375・35376 Y=62988	卵形	0.46、0.40、0.35	N-87°-E			
10号ピット	X=35370・35371 Y=62987・62988	円形	0.36、0.36、0.31				
11号ピット	X=35369 Y=62987	長円形	0.28、0.24、0.27	N-45°-E			
12号ピット	X=35371 Y=62688	円形	0.31、0.29、0.25	N-90°-E	1号溝		
13号ピット	X=35374 Y=62991・62992	卵形	0.32、0.24、0.12	N-8°-W			
14号ピット	X=35386 Y=62991	長円形	0.43、0.37、0.17	N-30°-E			
15号ピット	X=35375 Y=62991	長円形	0.46、0.36、0.61	N-30°-W		甕上より須恵器 椀(15ピット-1) が出土している。	本遺構の年代は出土遺物 から9世紀後半以降に比 定できる。
16号ピット	X=35383・35384 Y=62998・62999	円形	0.31、0.31、0.16				
23号ピット	X=35382 Y=62996	長円形	0.38、0.32、0.16	N-4°-E			
24号ピット	X=35378 Y=63000	円形	0.30、0.30、0.26				
28号ピット	X=65375 Y=63000	不明	0.31、(0.20)、0.16				
29号ピット	X=65376・65377 Y=62999	隅丸方形	0.37、0.37、0.16	N-73°-W			
30号ピット	X=35371 Y=62997	円形	0.31、0.27、0.22	N-19°-W			
31号ピット	X=35370 Y=62997	長円形	0.31、0.27、0.22	N-1°-W			
32号ピット	X=35371・35372 Y=62992	円形	0.45、0.42、0.27	N-35°-W	7号住居		調査時名称:7号住居P1。 7号住居に先行する。
33号ピット	X=35371 Y=35373	隅丸方形	0.45、0.35、0.17	N-32°-E	7号住居		調査時名称:7号住居P2。 7号住居に先行する。
34号ピット	X=35372 Y=62993	不整形	0.42、0.36、0.08	N-32°-W	7号住居		調査時名称:7号住居P3。 7号住居に先行する。
備考	調査区北側1/4の領域ではピットは確認されていない。 甕上が1層のみで構成されるピットの平面形状は卵形ないし長円形のものに限られ、この平面形のピットは主に調査区東半に分布する。						

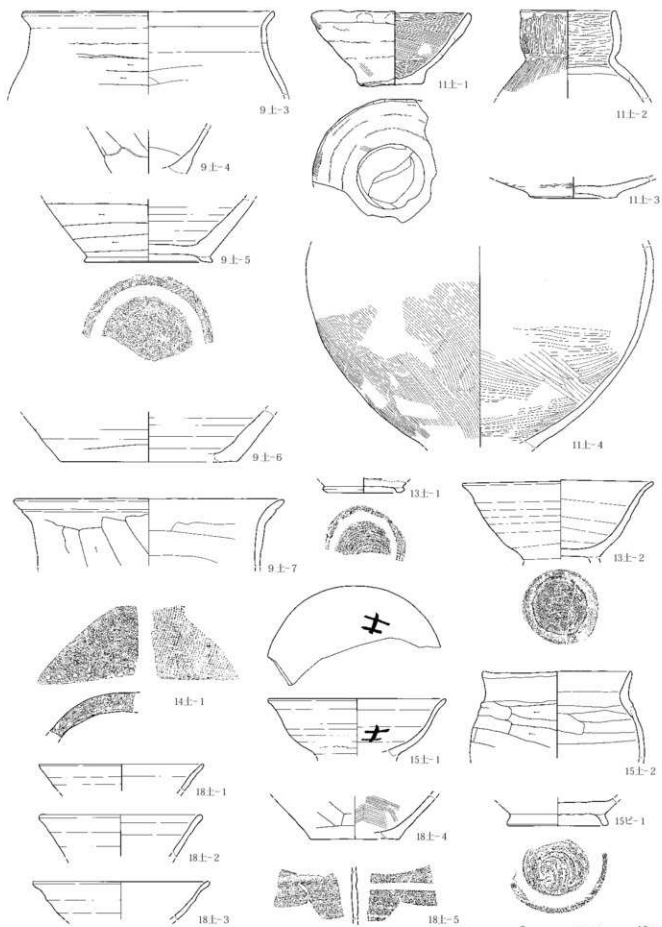
第17表 土坑一覧表2

土坑	遺物	所見
1号土坑	覆土中から土師器杯(1)のほか土師器などの破片(114g)が出土している。	出土遺物から8世紀から9世紀代に比定される。
2号土坑	覆土中から土師器片(14g)が出土している。	資料化できる遺物はなかった。
3号土坑	覆土中から土師器や須恵器などの破片(81g)が出土している。	資料化できる遺物はなかった。
4号土坑	覆土中から須恵器椀(1)灰輪陶器椀(2)のほか土師器や須恵器などの破片(170g)が出土している。	出土遺物から10世紀代に比定される。
5号土坑	覆土中から土師器杯(1,2)のほか土師器や須恵器などの破片(98g)が出土している。	出土遺物から9世紀から10世紀代に比定される。
6号土坑		
7号土坑	覆土中から土師器片(5g)が出土している。	資料化できる遺物はなかった。
8号土坑	覆土中から須恵器杯(1)土師器甕(2)のほか土師器や須恵器などの破片(136g)が出土している。	出土遺物から10世紀代に比定される。
9号土坑	覆土上面付近から土師器杯(1)土師器甕(3,4)須恵器壺(5)須恵器甕(6)が出土している。また覆土中から須恵器鉢(2)のほか土師器や須恵器などの破片(261g)が出土している。	出土遺物から9世紀代に比定される。覆土出土の土師器甕(7)は混入である。
10号土坑	覆土中から土師器片(29g)が出土している。	資料化できる遺物はなかった。
11号土坑	覆土中から土師器や須恵器などの破片(1,006g)が出土している。	18号土坑との重複関係から10世紀代に比定される。覆土出土の土師器壺(2,3)土師器甕(4)土師器鉢(1)は混入である。
12号土坑	覆土中から土師器片(75g)が出土している。	資料化できる遺物はなかった。
13号土坑	覆土中から須恵器椀(1,2)のほか土師器や須恵器などの破片(262g)が出土している。	出土遺物から10世紀代に比定される。
14号土坑	覆土中から瓦片(1)のほか土師器片(2g)が出土している。	本道跡出土の瓦2点中の1点が出土している。
15号土坑	覆土中から須恵器椀(1)土師器甕(2)が出土している。	出土遺物から10世紀代に比定される。
16号土坑	覆土中から土師器片(80g)が出土している。	7号住居との重複関係から9世紀代に比定される。
17号土坑		
18号土坑	覆土中から須恵器椀(1,2,3)須恵器甕(4,5)のほか土師器などの破片(205g)が出土している。	出土遺物から9世紀から10世紀代に比定される。



第33図 1,4,5,8,9号土坑出土遺物

第3章 確認された遺構と遺物

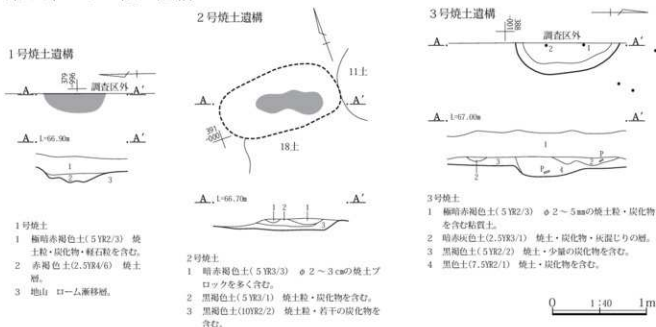


第34図 9, 11, 13~15, 18号土坑・15号ピット出土遺物

第18表 土坑・ピット出土遺物観察表

採掘 PL.No.	No.	種別 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第33回	1	土師器 杯	1号土坑 口縁部片	口 17.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(膝下)は手持ちヘラ削り。	
第33回	1	須恵器 椀	4号土坑 底部片	底 6.2 5.2		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第33回	2	灰釉陶器 椀	4号土坑 口縁部片	口 13.7		黄砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法不明。	大原2号室式 煎
第33回	1	土師器 杯	5号土坑 口縁部片	口 12.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第33回	2	土師器 杯	5号土坑 口縁部片	口 13.6		細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第33回	1	須恵器 鉢	8号土坑 1/4	口 13.5 高 3.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第33回	2	土師器 鉢	8号土坑 口縁部片	口 15.8 底 11.1		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第33回	1	土師器 杯	9号土坑 口縁部	口 12.2 高 3.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部内縁はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明、中央は無調整部分が残る。	外面体部に墨 書
第33回	2	須恵器 鉢	9号土坑 口縁部片	口 14.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第34回	3	土師器 甕	9号土坑 口縁部→胴部上 位片	口 19.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第34回	4	土師器 甕	9号土坑 底部片			細砂粒/良好/橙	胴部はヘラ削り、下部に粘土を貼付。内面はヘラナデ。	
第34回	5	須恵器 短須直	9号土坑 胴部下位→底部 1/2	底 9.6 10.0		細砂粒・粗砂粒・ 黒色粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部は回転ヘラ削り。	
第34回	6	須恵器 甕	9号土坑 底部片	底 14.1		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部はヘラナデ、胴部下部に回転ヘラ削り。	
第34回	7	土師器 甕	9号土坑 口縁部片	口 21.0		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第34回	1	土師器 鉢	11号土坑 1/3	口 12.2 高 5.3	6.0	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面に輪積痕が残る。口唇部は横ナデ、一部に指頭痕が残る。体部はナデ、底部はヘラ削り後一部にナデ、内面はハケ目(1cmあたり10本)。	
第34回	2	土師器 直口壺	11号土坑 口縁部→頸部片	口 7.3		細砂粒/良好/にぶ い橙	内外面胴部に輪積痕が残る。口縁部と胴部は縦位のヘラ磨き。内面は口縁部が横位のヘラ磨き。胴部がヘラナデ。	
第34回	3	土師器 甕	11号土坑 底部1/2	底 5.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	胴部はヘラ磨き後磨き。内面は器面剥落のため不明。	
第34回	4	土師器 甕	11号土坑、4号 住居周辺 胴部片			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面はハケ目(1cmあたり6本)、内面はヘラ磨き。	
第34回	1	須恵器 椀	13号土坑 底部1/2	底 6.2 5.8		細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第34回	2	須恵器 椀	13号土坑 口縁部一部欠	口 14.9 底 6.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付が剥落。	
第34回	1	瓦 丸瓦	14号土坑 破片			細砂粒/還元焰/灰 黄	表面と側面はヘラナデ、裏面には布目痕が残る。	
第34回	1	須恵器 椀	15号土坑 1/2	口 13.7 底 6.5		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	内面体部に 「キ」の墨書
第34回	2	土師器 小型甕	15号土坑 口縁部→胴部上 位3/4	口 11.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	内外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第34回	1	須恵器 椀	18号土坑 口縁部片	口 12.8		細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形。	
第34回	2	須恵器 椀	18号土坑 口縁部片	口 12.5		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第34回	3	須恵器 椀	18号土坑 口縁部片	口 13.6		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第34回	4	須恵器 椀	18号土坑 胴部下位小片	底 7.0		細砂粒/良好/褐灰	底部と胴部はヘラ削り。内面はハケ目(1cmあたり7本)。	
第34回	5	須恵器 椀	18号土坑 胴部片			細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形。	
第34回	1	須恵器 椀	15号ピット 底部	底 7.6 7.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

第7節 その他の遺構



第35図 1～3号焼土遺構

焼土遺構3か所、性格不明遺構2基が検出された。

また本調査区の地山であるローム面に旧石器確認トレンチを設定した。調査区東半の中央部と調査区西半の南北2か所の地山面にて調査を行った。旧石器時代の遺構・遺物は検出されなかった。

1号焼土遺構(第35・36図 PL.14)

位置 X=35378・35379 Y=-62996

平面形状 不明。

規模(長、短、深) (0.66)m、(0.21)m、0.26m

長軸方向 不明。

覆土 焼土粒、炭化物、軽石粒を含む極暗赤褐色土。

重複関係 なし。

遺物 覆土中より土師器高杯(1)土師器壺(2)ほか土師器片(190g)が出土している。

所見 覆土1層を基本土層Ⅵ層に由来するとすれば、本遺構の年代は10世紀以前と推測される。

2号焼土遺構(第35・36図 PL.14・18)

位置 X=35390・35391 Y=-62998～-63000

平面形状 長円形。

規模(長、短、深) 1.28m、0.67m、0.12m

長軸方向 N-84°-W

覆土 焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。

重複関係 18号土坑。18号土坑より新しい。

遺物 覆土中より土師器甕(1)ほか土師器や須恵器などの破片(530g)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から10世紀代に比定できる。

3号焼土遺構(第35・36図 PL.15・18)

位置 X=35388・35389 Y=-63000

平面形状 不明。

規模(長、短、深) 1.10m、(0.34)m、(0.20)m

長軸方向 不明。

覆土 上位層は焼土・炭化物を含む暗赤系の土、下位層は焼土・炭化物を含む黒色系の土。

重複関係 なし。

遺物 覆土中より須恵器椀(1,2)土師器甕(3,4,5)ほか土師器や須恵器などの破片(627g)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から9世紀から10世紀代に比定できる。覆土出土の土師器甕(6)は混入である。

1号不明遺構(第36図 PL.15)

位置 X=35393 Y=-62989・-63000

平面形状 不明。

規模(長、短、深) (1.75)m、(0.26)m、(0.04)m

長軸方向 不明。

重複関係 2号不明遺構。2号不明遺構より新しい。

遺物 覆土中より須恵器碗(1)土師器甕(2)ほか土師器や須恵器などの破片(245g)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から9世紀から10世紀代に比定できる。

2号不明遺構(第36・37図 PL.15・19)

位置 X=35392・35393 Y=-62988~-63000

平面形状 不明。

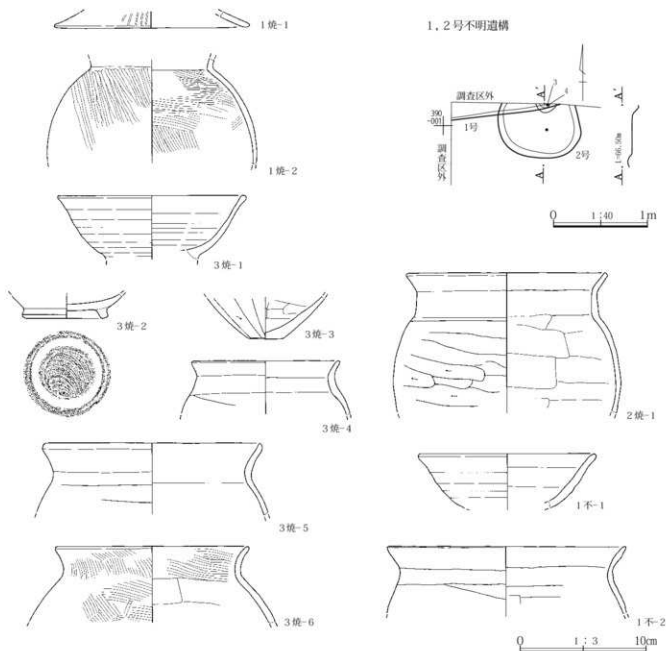
規模(長、短、深) 1.36m、(0.90)m、(0.21)m

長軸方向 N-76°-W

重複関係 1号不明遺構。

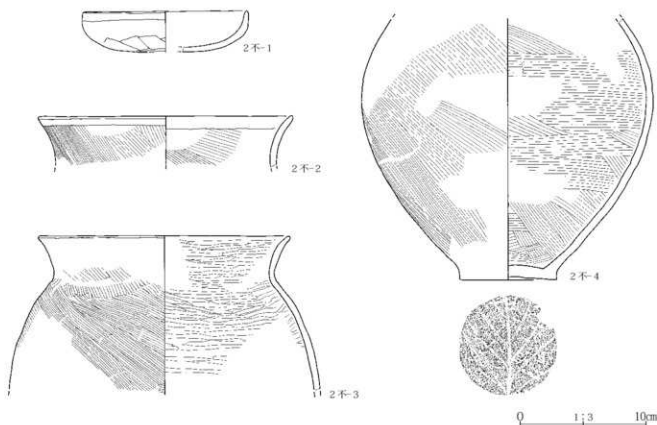
遺物 覆土中より土師器杯(1)のほか土師器や須恵器などの破片(189g)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から8世紀後半より新しい。覆土出土の土師器甕(3,4)は混入である。



第36図 1, 2号不明遺構、1~3号焼土遺構・1号不明遺構出土遺物

第3章 確認された遺構と遺物



第37図 2号不明遺構出土遺物

第19表 焼土遺構・不明遺構出土遺物観察表

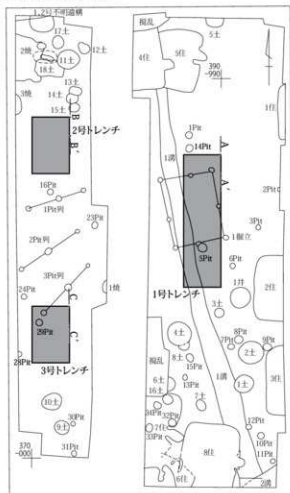
種 別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第36図	1	土師器 高杯	1号焼土遺構 胴部上部小片	脚 15.0	細砂粒/良好/橙	外面に放射状へら磨き。	
第36図	2	土師器 壺	1号焼土遺構 胴部片		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	胴部は外面へら磨き、内面はハケ目(1cmあたり6本)	
第36図 PL.18	1	土師器 甕	2号焼土遺構 口縁部～胴部上 位片	口 15.5	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に 木口の残るへらナデ。	
第36図 PL.18	1	須恵器 椀	3号焼土遺構 1/4	口 14.8 底 7.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリーブ	ロクロ整形、回転右回りか。高台が貼付。	
第36図 PL.18	2	須恵器 椀	3号焼土遺構 底部のみ	底 6.4 底 5.6	細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第36図	3	土師器 甕	3号焼土遺構 底部1/2	底 3.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第36図 PL.18	4	土師器 小型甕	3号焼土遺構 口縁部片	口 11.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第36図 PL.18	5	土師器 甕	3号焼土遺構 口縁部片	口 17.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第36図 PL.18	6	土師器 甕	3号焼土遺構 口縁部～胴部上 位片	口 15.0	細砂粒/良好/橙	口縁部はハケ目が残る、胴部はハケ目(1cmあたり4本)。 内面は口縁部にハケ目、胴部はへらナデ。	
第36図	1	須恵器 椀	1号不明遺構 1/4	口 13.6	細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回りか。	
第36図	2	土師器 甕	1号不明遺構 口縁部片	口 18.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第37図	1	土師器 杯	1号不明遺構 1/4	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底 部は手持ちへら削り。	
第37図 PL.19	2	土師器 甕	2号不明遺構 口縁部片	口 19.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はハケ目が残る。	
第37図 PL.19	3	土師器 甕	2号不明遺構 口縁部～胴部上 位1/3	口 19.6	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、頸部はハケ目が残る、胴部はハケ目(1 cmあたり7～8本)。内面は口縁部、胴部ともへら磨き。	
第37図 PL.19	4	土師器 甕	2号不明遺構 胴部～底部 2/3	底 7.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	底部に木葉筋が残る。胴部はハケ目(1cmあたり4～5本)。 内面は底部がへらナデ、胴部はハケ目。	

旧石器の調査(第38図 PL.15)

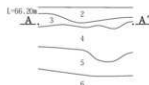
古代の遺構の調査終了後に旧石器時代の調査を実施した。調査区に3か所のトレンチを設定し、ローム層下の粘質土まで掘り下げた。その結果、旧石器の遺物は確認

されず、ロームの堆積状態を確認するにとどまった。トレンチ上層のローム漸移層から古代の土器が出土しており図示した。

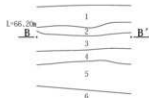
旧石器確認トレンチ配置



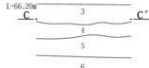
1号トレンチ



2号トレンチ



3号トレンチ

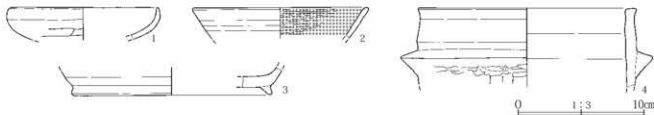


0 1:40 1m

旧石器確認トレンチ

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム漸移層。As-YF粒を含む。
- 2 褐色土(10YR4/6) ローム漸移層。As-YF粒を多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ϕ 5~10mmのAs-YF粒を多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 砂と軽石の混土層。
- 5 褐色土(7.5YR4/6) 砂とロームの混土。鉄分含む褐色ブロックが入る。
- 6 灰白色土(7.5YR8/1) 粘度の高い水が湧いてくる。As-BF相当。

0 1:200 10m



0 1:3 10cm

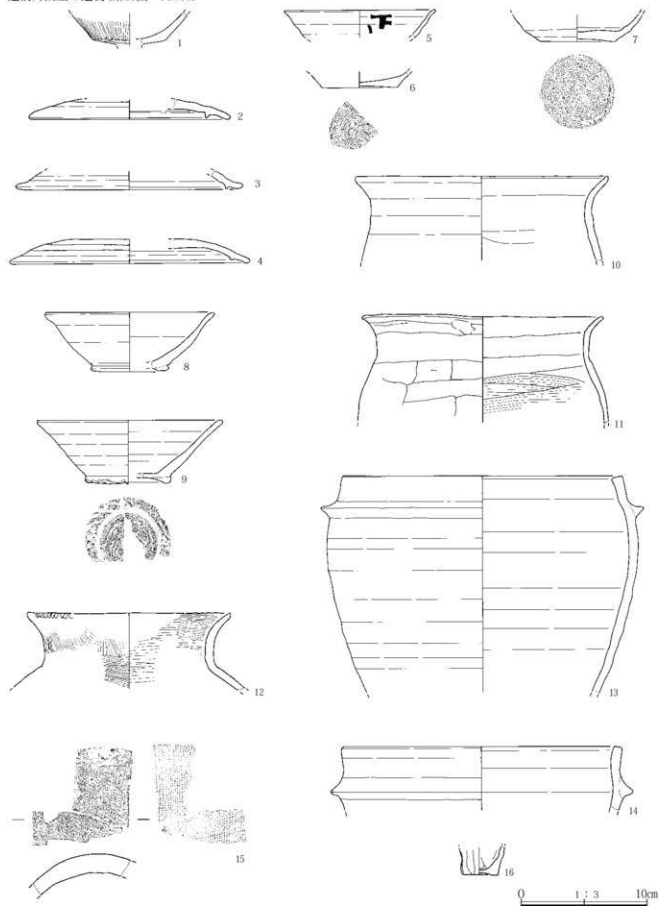
第38図 旧石器確認トレンチ配置図・土層図、1号トレンチ出土遺物

第20表 旧石器確認1号トレンチ出土遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部片		□ 11.6	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナテ、体部はへら削り。	
第38図	2	黒色土器 椀	埋没土 口縁部片		□ 13.6	細砂粒/酸化燻/にぶい 黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。内面はへら磨き。	
第38図	3	須恵器 盤	埋没土 底部片		底高 16.0 底径 15.6	細砂粒/還元燻/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へら削り後高台を 貼付。	
第38図	4	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部片		□ 17.0 □ 20.0	細砂粒/酸化燻/浅 黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。隅は貼付、胴部はへら削り のへら削り。	

第3章 確認された遺構と遺物

遺構外出土の遺物(第39図 PL.19)



第39図 遺構外出土遺物

第21表 遺構外出土遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第39図	1	土師器 高杯	4号住居周辺埋 没土 杯身部片	底	5.7		細砂粒/良好/橙	杯身部口縁部は放射状のヘラ磨き、底部はヘラ削り。	
第39図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	15.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、 内面口縁部にカエリあり。	
第39図	3	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	17.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。内面口縁部にカエリあり。	
第39図	4	須恵器 杯蓋	埋没土 1/3	口	18.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、 内面口縁部にカエリあり。	
第39図 PL.19	5	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	11.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。	内面口縁部に 黒書。
第39図	6	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	6.1		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第39図	7	須恵器 杯	埋没土 底部	底	6.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第39図	8	須恵器 埴	埋没土 1/4	口 底	13.2 6.0	台 高 4.4 4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付。	
第39図 PL.19	9	須恵器 埴	埋没土 1/2	口 底	14.3 6.6	台 高 6.2 5.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 高台端部は乾壁時に使用した棒状の置台の痕跡が残る。	
第39図	10	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	19.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第39図 PL.19	11	土師器 甕	埋没土 口縁部1/2	口	18.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に 木口に残るヘラナデ。	
第39図 PL.19	12	土師器 埴	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.0		細砂粒/良好/橙	口唇部に刻み目、頸部にハケ目(1cmあたり5本)、胴部は ヘラ磨き。内面は口縁部にハケ目、胴部はヘラ磨き。	
第39図 PL.19	13	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴部下 位1/4	口 罅	22.0 25.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第39図	14	須恵器 羽釜	4号住居周辺埋 没土 口縁部～罅片	口 罅	21.4 24.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第39図 PL.19	15	瓦 丸瓦	4号住居周辺埋 没土 破片				細砂粒/還元焰/灰 白	表面と側面はヘラナデ、裏面は布目織が残る。	
第39図 PL.19	16	手捏ね 椀形	埋没土 口唇部欠	底	2.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面ともナデ。	

第22表 未掲載石質遺物集計表

遺構名	種類	器種	数量
東区覆上一括	石造品	板碑片	1
西区覆上一括	剥片石器	二次加工ある剥片	1

第23表 剥片集計表

遺構名	石材	数量
東区包含層	黒色頁岩	1
東区包含層	黒色安山岩	2
西区包含層	細粒輝石安山岩	1

第24表 未掲載金属遺物集計表

遺構名	種類	数量
5号住居覆上一括	銅塊	1
東区覆上一括	鉄製品	1
東区覆上一括	鉄塊	1

第3章 確認された遺構と遺物

第25表 未掲載土器集計表

遺構名	土師器破片			須恵器破片			瓶・甬器破片		その他 不明	合計								
	大	中	小	大	中	小	底軸片	小										
1号住居	76	10								76	10							
2号住居	81	25	18	5			22	4		121	34							
3号住居	47	15	18	6						65	21							
4号住居	794	140	85	28			55	8		934	176							
5号住居	680	61	41	7	78	1			40	2	839	71						
6号住居	1592	284	301	48	143	8	151	16		2187	356							
7号住居	1252	353	371	105	96	6	221	41	7	1	1947	506						
8号住居	1192	126	681	249	658	10	133	28	10	1	2674	414						
1号竪立柱建物	11	2									11	2						
1号土坑	102	19	9	4				3	1		114	24						
2号土坑	3	1	11	1							14	2						
3号土坑	62	23	11	3			8	4			81	30						
4号土坑	96	44	29	5	33	1	12	3			170	53						
5号土坑	70	14	9	3	19	1					98	18						
7号土坑			5	1							5	1						
8号土坑	77	23	46	12	8	1	5	1			136	37						
9号土坑	203	42			16	2	42	9			261	53						
10号土坑	29	1									29	1						
11号土坑	952	103	48	13	6	1					1006	117						
12号土坑	75	12									75	12						
13号土坑	221	26	38	8			3	1			262	35						
14号土坑	2	1									2	1						
16号土坑	76	11	4	1							80	12						
18号土坑	141	35	32	7					32	1	205	43						
1号井戸	150	50	11	4	52	2					213	56						
1号溝	241	70	71	13	140	3	23	6			475	92						
2号溝	24	7	73	16			8	1			105	24						
1号焼土	180	23	10	2							190	25						
2号焼土	500	62	20	4			10	4			530	70						
3号焼土	420	63	140	18	60	1	7	2			627	84						
1号不明遺構	171	36	21	5			53	9			245	50						
2号不明遺構	181	28	2	1			6	1			189	30						
1号トレンチ	491	131	57	20			68	14		70	1	686	166					
1号遺物集中	171	23			57	1					228	24						
4号住居周辺	1121	213	231	28	221	60	253	13	231	28	116	17	13	2	2186	361		
遺構外・東区	2771	388	118	14	711	238	181	42			421	44	20	3	130	5	4352	734
遺構外・西区	1710	362			550	98	240	9			200	24					2700	493

左:破片重量(g)、右:破片点数(片)。

大中小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高環・小型甕など、大は甕・羽釜・甑など。

第4章 まとめ

ローム層を地山とする微高地に立地する25mプールほどの広さの調査地から検出された古代の遺構は、竪穴住居8軒、掘立柱建物1棟、土坑18基、井戸1基、ピット列3条、ピット24基、溝2条、焼土遺構3か所、性格不明遺構2基である。8軒ある住居も7軒は確認面積が5割に及ばず、また隣接する神人村Ⅱ遺跡でみられたように、本遺跡でも耕作が深く遺構確認面まで及んでおり、遺構・遺物ともに遺存状況は良好とはいえないものである。

まず本遺跡の広がりについて考えてみたい。

神人村Ⅱ遺跡調査報告において、調査に伴い検出された遺構群は「当地における居住域の東端部に位置する」（平田1992）と考察され、更に西に集落が続く事が予想された。また、その集落変遷は「8世紀、奈良時代の初め頃から居住域として台地中央が占地されるようになり、小部落?として継続していきながら、9世紀中葉から後半にかけて集落の拡大占地が認められた。しかし、この拡大も10世紀には終焉を迎えた」（平田1992）とある。

本遺跡における住居配置は、神人村Ⅱ遺跡寄りの調査区東端から8・9世紀代住居が検出され、その西側から10世紀代住居が検出されている。加えて、住居の検出は本遺跡調査区西半には及んでいない。また住居の密集度も隣接する神人村Ⅱ遺跡に及ばない。8世紀代住居を中核とし、その周辺域に10世紀代住居が偏在するという集落構造を本遺跡に適用すれば、神人村Ⅱ遺跡から続く集落の西端が本遺跡と考えられるであろう。

本遺跡および神人村Ⅱ遺跡は利根川と藤川の合流点近くにあり、同河川流域に点在する微高地のひとつに位置する。利根川流域は変流後の現利根川のもたらした土砂の堆積により、古代の遺跡が厚く覆われている地域である。そのため微高地の広がり具合も実際に調査してみないと確認できないというのが現状であるが、この微高地は調査区周辺を北限として、南方へと展開していると考えられる。農業技術研究所の土壌データベースによれば、本遺跡周辺の土壌である「12D細粒褐色低地土、斑紋あり」は本遺跡から南に150m離れた地点においても確認

されている。極越地区の奈良・平安時代集落は微高地に立地すると仮定した場合、本遺跡および神人村Ⅱ遺跡を構成する集落の領域は調査区周辺を北端とし、更に南方に展開する余地が残されていると考えられ、今後の調査が期待される。

本遺跡より微高地を西南に100mほどたどった先には神人村遺跡があるが、この遺跡からは溝・土坑が検出されたにとどまる。更に微高地を西南に100m程たどると一万田遺跡に至り、この遺跡からは集落が報告されている。また本遺跡より南に100mほど離れた同一微高地上の玉村町№79遺跡は土師器包蔵地とされるが本調査に至っていない。あえて付言すれば、本遺跡を構成する集落の展開域が調査区より南方へ広がるとしても、100mには及ばない範囲になると考えられる。

次に本遺跡出土の古墳時代の遺物について若干の補足をを行う。

3章で混入とした古墳時代遺物の出土地点は、1号住居・4号住居・7号住居・11号土坑・1号焼土遺構・2号不明遺構の6か所である。このほか4号住居周辺域から遺構外の遺物として1点を取り上げた。このうち4号住居・11号土坑・2号不明遺構・遺構外(4号住居周辺)は調査区北西隅で互いに近接する。また遺構外(4号住居周辺)出土土器片と11号土坑出土土器片との接合例も確認されている。古墳時代土器片の破断面はいずれも水で流された痕跡もなく、周辺域に遺跡が広がる可能性も否定しえない。この一画を本遺跡の検出遺構の帰属年代より古い時期の遺物の散布地の一部と考えたい。

参考資料

平田貴正1992「VI.まとめ」『神人村Ⅱ遺跡 -群馬県中央食肉衛生検査所移転建築に伴う埋蔵文化財調査報告書-』玉村町教育委員会pp.69-70
農業技術研究所「土壌情報閲覧システム、http://agrimesh.de.affrc.go.jp/soil_db/index.phtml」

報告書抄録

書名ふりがな	ひごしじんじんむらいせき
書名	樋越神人村遺跡
副書名	群馬県動物愛護センター建設工事事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	608
編者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20151210
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地 2
遺跡名ふりがな	ひごしじんじんむらいせき
遺跡名	樋越神人村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまちひごし
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町樋越305番地 7
市町村コード	10464
遺跡番号	0066
北緯(世界測地系)	361901
東経(世界測地系)	1390755
調査期間	20140501-20140531
調査面積	380
調査原因	公共施設建設
種別	集落
主な時代	奈良/平安
遺跡概要	集落-奈良・平安-竪穴住居 8 + 掘立柱建物 1 + 土坑 18 + 井戸 1 + 溝 2 + ビット列 3 + ビット 24 + 焼土遺構 3 + 性格不明遺構 2
特記事項	平成 3 年度玉村町調査の神人村 II 遺跡の北西を調査した。
要約	樋越神人村遺跡は前橋台地東南端の微高地に位置する古代の集落である。8 世紀代に集落として発展をはじめ、10 世紀半ばに居住地としての終焉を迎えた。

写真図版



1. 樋越神人村遺跡全景(東から)



2. 樋越神人村遺跡全景(北から)



1. 1号住居全景(西から)



2. 2号住居全景(西から)



3. 2号住居土層断面A-A' (南から)



4. 3号住居全景(西から)



5. 4号住居全景(西から)



6. 4号住居カマド遺物出土状態(西から)



7. 4号住居カマド全景(西から)



8. 4号住居須恵器羽釜(3)出土状態(西から)



1. 5号住居全景(西から)



2. 5号住居カマド土層断面C-C'(西から)



3. 6号住居全景(南西から)



4. 6号住居カマド土層断面C-C'(南西から)



5. 6号住居カマド土層断面B-B'(北西から)



6. 6号住居カマド全景(南西から)



7. 6～8号住居全景(西から)



8. 7号住居全景(北西から)



1. 7号住居カマド土層断面C-C'(北西から)



2. 7号住居カマド土層断面B-B'(南西から)



3. 7号住居カマド全景(北西から)



4. 7号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 8号住居全景(西から)



6. 8号住居カマド全景(西から)



7. 8号住居掘り方全景(西から)



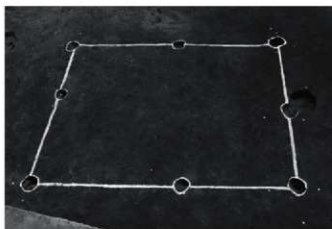
8. 8号住居カマド掘り方土層断面C-C'(西から)



1. 8号住居カマド掘り方土層断面C-C'(南から)



2. 8号住居ピット1全景(南から)



3. 1号掘立柱建物全景(西から)



4. 1号掘立柱建物P1全景(南から)



5. 1号溝全景(北から)



6. 1号溝板碑(4)出土状態(南から)



7. 2号溝全景(西から)



8. 2号溝全景(東から)



1. 1号井戸全景(南から)



2. 1号井戸土層断面(南から)



3. 1号土坑全景(南から)



4. 1号土坑土層断面(南から)



5. 2号土坑全景(南から)



6. 2号土坑土層断面(南から)



7. 3号土坑全景(南東から)



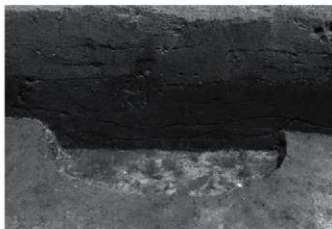
8. 3号土坑土層断面(南東から)



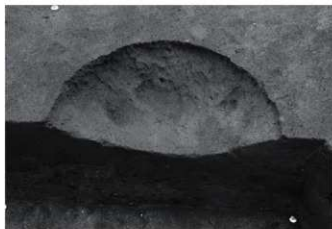
1. 4号土坑全景(南から)



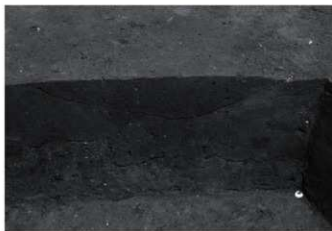
2. 4号土坑土層断面(南から)



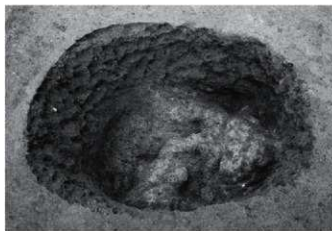
3. 5号土坑土層断面(南から)



4. 6号土坑全景(西から)



5. 6号土坑土層断面(西から)



6. 7号土坑全景(南西から)



7. 7号土坑土層断面(南東から)



8. 8号土坑全景(北東から)



1. 9号土坑遺物出土状態(東から)



2. 9号土坑土層断面(北東から)



3. 9号土坑全景(北東から)



4. 10号土坑全景(南から)



5. 10号土坑土層断面(南から)



6. 11号土坑遺物出土状態(北から)



7. 11号土坑土層断面(北から)



8. 11号土坑全景(北から)



1. 12号土坑全景(北から)



2. 12号土坑土層断面(南から)



3. 13~15号土坑遺物出土状態(西から)



4. 13~15号土坑断面(西から)



5. 13~15号土坑全景(西から)



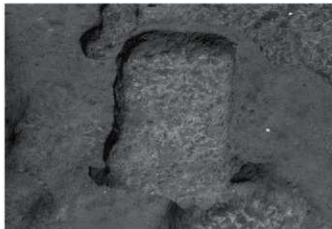
6. 16号土坑全景(西から)



7. 17号土坑全景(東から)



8. 17号土坑土層断面(南から)



1. 18号土坑全景(東から)



2. 18号土坑土層断面(東から)



3. 1号ビット列P1全景(南から)



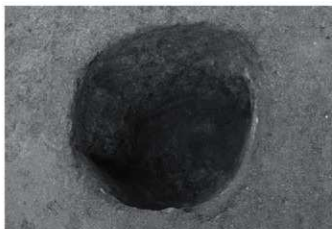
4. 1号ビット列P2全景(南から)



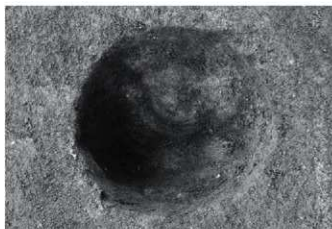
5. 1号ビット列P3全景(南から)



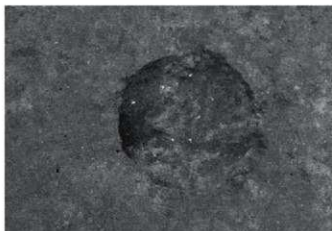
6. 2号ビット列P1全景(南から)



7. 2号ビット列P2全景(南から)



8. 2号ビット列P3全景(南から)



1. 3号ビット列P1全景(南東から)



2. 3号ビット列P2全景(南から)



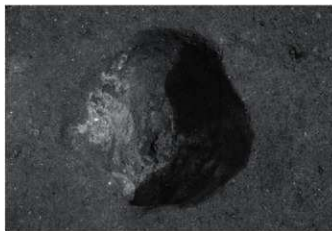
3. 3号ビット列P3全景(南から)



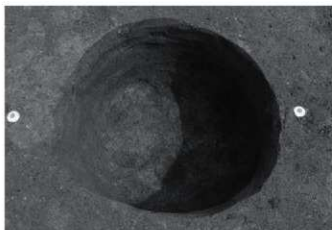
4. 1号ビット全景(南から)



5. 2号ビット土層断面(西から)



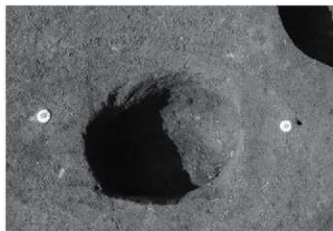
6. 3号ビット全景(南から)



7. 5号ビット全景(南から)



8. 6号ビット全景(南から)



1. 7号ピット全景(南から)



2. 8号ピット全景(南から)



3. 9号ピット全景(南から)



4. 10号ピット全景(南から)



5. 11号ピット全景(西から)



6. 12号ピット全景(南西から)



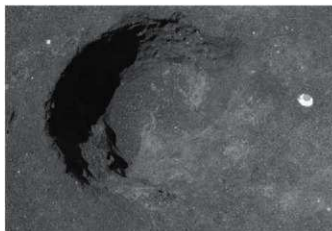
7. 13号ピット全景(南から)



8. 14号ピット全景(南から)



1. 15号ピット全景(北東から)



2. 16号ピット全景(南から)



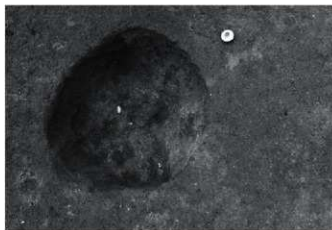
3. 23号ピット全景(南から)



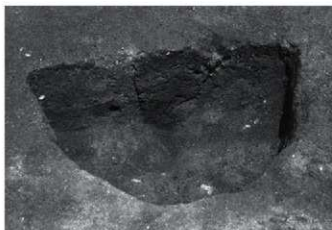
4. 24号ピット全景(南東から)



5. 28号ピット土層断面(東から)



6. 29号ピット全景(南東から)



7. 29号ピット土層断面(南西から)



8. 30号ピット全景(西から)



1. 31号ピット全景(北から)



2. 32号ピット全景(西から)



3. 33号ピット土層断面(南から)



4. 34号ピット全景(南から)



5. 1号焼土遺構全景(西から)



6. 1号焼土遺構土層断面(西から)



7. 2号焼土遺構全景(西から)



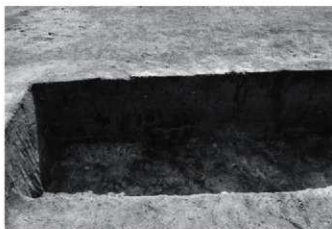
8. 2号焼土遺構土層断面(北東から)



1. 3号焼土遺構土層断面(東から)



2. 1, 2号不明遺構全景(南から)



3. 旧石器確認1号トレンチ(西から)



4. 旧石器確認1号トレンチ土層断面(西から)



5. 旧石器確認2号トレンチ(西から)



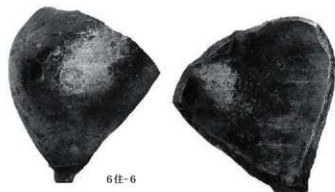
6. 旧石器確認2号トレンチ土層断面(西から)



7. 旧石器確認3号トレンチ(西から)



8. 旧石器確認3号トレンチ土層断面(西から)





7ft-1



7ft-3



7ft-2



7ft-4



7ft-5



7ft-10



7ft-6



8ft-2



8ft-5



8ft-4



8ft-3



8ft-6



8ft-7



8ft-8



1溝-4



8上-2



9上-1



9上-5



9上-3



9上-7



11土-1



11土-2



11土-3



11土-4



13土-1



13土-2



14土-1



15土-1



15土-2



18土-5



15土-1



3坑-1



3坑-5



2坑-1



3坑-2



3坑-4



3坑-6



2不-2



2不-3



2不-4



道橋外-5



道橋外-9



道橋外-11



道橋外-12



道橋外-13



道橋外-15



道橋外-16

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第608集

樋越神人村遺跡

群馬県動物愛護センター建設工事事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27(2015)年12月5日 印刷

平成27(2015)年12月10日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田1784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社

